

長期留学プログラム 帰国報告書

<目次>

1.	韓国	交換留学	<u>啓明大学……………2</u>
2.	韓国	交換留学	<u>韓南大学……………8</u>
3.	台湾	交換留学	<u>輔仁大学……………17</u>
4.	アメリカ	交換留学	<u>リンフィールド大学…20</u>
5.	アメリカ	交換留学	<u>ミネソタ州立大学…27</u>
6.	アメリカ	語学派遣留学	<u>アーカンソー大学…32</u>
7.	アメリカ	語学派遣留学	<u>ハワイ大学 KCC…35</u>

※内容は随時更新されます。

帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	比較文化学科
留学先大学	韓国・啓明大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2023年2月～2023年6月(約4か月)		

1. はじめに

私は2023年2月から6月まで韓国の大邱にある啓明大学に留学していました。自分が留学した理由は、韓国語の能力の向上と、韓国文化を実際の生活で体感したいからでした。その中でも、大邱にある啓明大学を選んだ理由は、大邱という韓国の中でも大きい地方都市に住み、韓国の中でも文化の違いのひとつとして体験したいということと、その文化のひとつでもある方言について、学びたかったという理由がありました。また、啓明大学はとても広いキャンパスで、施設も充実しており、各国から留学生が多く訪れていて、様々な文化に触れることもできるだろうと考えていました。結果的に、志望当初から留学が終わるまで、啓明大学に行くことができてよかったと思いました。

私は、海外に行くのも初めてのなか、韓国に「留学」という旅行とはまた違う、長期的な滞在に行きました。準備するものも、海外で生活する自分を想像することが難しく、とても大変だったことを記憶しています。成田空港から仁川空港へわずか2時間40分ほどで到着し、飛行機から出た先が、既に韓国であるという実感が全く湧いていませんでした。しかし、入国審査や大邱へ向かうために KTX のチケットを取るなどの過程を通じていくたびに、自分は異国の地に来たのだなという実感が徐々にわいてきて、明日への不安が毎日付きまとうようでした。そんな不安な心境の中、思い出に残っているのは、大邱へ行くまでの道のりで出会った切実な韓国人の姿でした。KTX のチケットの買い方がわからないと、係の方が教えてくれ、KTX まで連れて行ってくださったり、重い荷物を座席の上にある荷物棚へ代わりに上げてくださる方がいらついたり、とても人に恵まれたなと感じました。

大邱に到着した次の日に、ようやく大学に行くことができ、聞いていたことと違うことも多くあり、戸惑うこともありましたが、ようやく啓明大学での生活が始まりました。

2. 学校生活

啓明大学では寮で暮らし、留学生向けに公開された学部授業を受講していました。主に TOPIK 対策の授業や、韓国文化を学ぶ授業を取っていました。韓国文化を学ぶ授業は韓国の目線から見た歴史を学ぶことができたことが印象深かったです。日本では絶対学ぶことができないと感じてとても新鮮でした。TOPIK 対策の授業は、当初、授業の説明を聞くのも難しいと感じていて、語学堂を選択するべきだったかなと考えることもありましたが、結果的には、留学先で語学の向上に向けた努力をするきっかけとなり、授業もとても身になったと思っていますので、この選択をしてよかったと思っています。TOPIK5 級以上持っているなら、TOPIK 対策の授業を取らずに、自分の専攻に合った、他の専門科目を取ることもできると思うし、逆に TOPIK 初級であるなら、語学堂の授業を取る方がいいのではないかと感じました。また、語学堂に通っていても、1 つは科目の授業を取る義務があるそうなので、迷うのであれば、語学堂の方がいいのかなとも思いました。また、英語の科目があるのですが、基本的にネイティブに向けた授業であるので、もし日常会話以上の英語のレベルを持っていたら、とても幅広い種類の授業が開講されているので、履修してみてもいいと思います。韓国語で開講されている授業は、基本的にアジアから来た留学生が多いので、英語の授業を取ると、英語圏から来た留学生と知り合うきっかけになると思います。

啓明大学には、学食が3つ、カフェが6つあります。学食も1つの場所に日本の大学より多くの種類のメニューがそろっていました。基本的に韓食で、場所によって中華、洋食、ファストフードがそろっているところがありました。基本的に5000ウォン台で食べることができ、1日に2食を学食で食べることもありました。量もとても多いので、帰国した今、学食がとても恋しく思います。また、6つもカフェがあるほど、食後は決まってアイスコーヒーを買う人が多く、授業内でもコーヒー片手に来る人がほとんどでした。先生方も持ってくるほどでした。日

本ではなかなか目にしないので、最初はとても違和感がありました。そして、韓国のカフェのドリンクは基本的なサイズが、日本で L サイズほどあって2000ウォンと安い価格で飲むことができるので、韓国に行ったら、ぜひその文化に倣って飲んでみてほしいと思います。

また、啓明大学には、国際ラウンジがあり、多くの生徒が毎日そこで過ごしています。勉強はもちろん、韓国のボードゲームなどで遊ぶこともできます。そして、多くのイベントを開催しており、英語音声での映画の放送や、「K-LACE」という韓国人 1 人に留学生数人のグループでの交流活動、韓国の小学生たちに自分たちの文化を教えるイベントなど多種多様なイベントが企画されます。私もそこで多くの人と知り合ったり、K-LACE という活動に参加したりしました。授業の空いた時間にも気軽に来られる場所なので、次に行く留学生にもたくさん活用してほしいと思います。

バディ制度については、私のバディはとても親切で、様々な手続きの場面で手伝ってくれました。また、趣味が偶然にも合っていたので、たまに予定が合うときに遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりできたので良かったです。日本語も JLPT の N1 を持っているようで、会話に困ることはありませんでした。また、他の友達のバディが誘ってくれて遊びに行くこともしました。かなり活動的な方で、毎週のようにいろんなところに連れて行ってくれました。普段、自分だったら、同じ場所にはばかり行ったり、平日の疲れからなかなか外に出ないこともあったりしたので、とても新鮮な体験ができたと思います。

3. 日常生活

大学の周辺は、学生が多く利用することから、飲食店も多く、平日は毎日賑わっています。逆に、大学が休みの土日はお店が営業していないところが多かったです。日本では土日はほとんど営業しているところが多い印象なので、その違いも新鮮だと感じました。そこまで値段の張るお店もなく、手ごろな値段でほとんどの食事をすることができると思います。大邱は日本食も人気なようで、天丼やトンカツ、日本のラーメンのお店もちらほら見かけました。韓国で食べる日本のラーメンは少し高かったです。味もそこまで変わることなくおいしかったです。カフェも本当にたくさんあり、どこもおしゃれなコンセプトを持っているので、カフェ巡りが好きな方は、大邱に来ることをおすすめしたいです。そして、E マートという大型のスーパーが、大学の少し先辺りにあり、日常生活で足りないものをここでほとんどそろえることができるので、大学周辺は充実していると言えると思います。少し電車に乗れば、大邱の繁華街である場所に行くことができ、ショッピングしたいときや友達と遊びたい時にはぴったりの場所であると思います。

韓国はキャッシュレス社会と聞いていた通り、ほとんどがカードでの支払いでした。また、カフェやファストフードのお店では機械で注文しそこで決済するという形が多かったので、逆に現金が使いにくいような印象でした。しかし、T マネーと呼ばれる交通カードのチャージは現金でしかできなかつたり、市場などに行くと、現金でしか決済できなかつたりするので、キャッシュレス社会と呼ばれる中、現金が全く必要ないというわけではないのも不思議でした。また、大邱では VISA が使えないお店が意外とありました。韓国の銀行に口座を作るときに、マスターカードのデビット機能が付いたキャッシュカードをもらうことができ、そのカードだったら、支払いに成功していたので、日本からカードを用意してくる場合は、VISA だけではなく、マスターカードがあるといいと思います。

韓国で通販やアプリを利用するときに、ほとんどの場合、外国人登録証が求められます。大学で手続きをしてくれるので、個人で申請するより楽であると思います。ただ、4 月の頭に申請し、5 月末ほどに届きました。届くのが遅いので、一学期だけの留学だと、前半の留学生活は少し不便ではありますが、外国人登録があると、電子決済が使えるようになったり、ウーバーイーツのようなサービスが使えるようになったり、かなり生活が楽になります。

4. 寮生活

啓明大学の寮は何種類か種類があるようで、私が選んだのは女性寮でした。寮の中でも比較的新しい場所だったようで、寮の設備も部屋もそこまで古くは感じませんでした。私は 2 階で、そこは、日本人と中国人が多いようでした。基本的に階によって、国籍が固められているようでした。韓国人の方が申請を出せば、韓国人と同じ部屋になる場合があるらしいですが、同じ国同士の人と一緒にいる人が多いようでした。部屋は 2 人で一部屋でした。寮は、門限が夜の 11 時 40 分で、毎晩部屋にいるかどうか、階長が点呼をしに来ます。そして、冷蔵庫は共同であり、10 階の中で、3 つ設置されています。冷蔵庫には、飲料と薬品、ヨーグルトしか入れることができないので、冷蔵食品などを保管することはできませんでした。電子レンジは正確に何個あるかわかりませんでしたが、私が利用する階は冷蔵庫と同じ場所にあったので、それで考えると 3 つほどなのかなと思います。食事の時間帯には、小さいですが、列ができるほどでした。また各階に、ウォーターサーバーが

設置されていて、のどが渴いたときや、カップラーメンなどを作るときはそこで作ることができるので、便利でした。ウォーターサーバーで水をくむための水筒があるといいと思います。キッチンも全寮で共同なようで、コンビニがある場所に併設されていました。ラーメンやパスタを電子レンジで調理できる器具があると、わざわざ一度寮を出て、キッチンで調理しなくていいので、便利だと思います。洗濯機はドラム式が8台ほど、古いものが3台、乾燥機が2台設置されていました。洗濯カードというものを買い、それに料金をチャージして利用するという形式でした。洗濯機に対して乾燥機が少ないので、空いていることが少ない印象でした。なので、洗濯物を部屋に干すことができるものを買う必要があると思います。備え付けのハンガーが用意されていますが、洗濯物を干すのに使う場合には日本から用意してもいいと思います。あと、洗濯機を回す際に、日本の洗濯機は洗剤を入れる目安の洗濯物の量が表示されますが、それがないので、どれくらい洗剤を入れればいいのか分かりませんでした。布団が買えると聞いていたのですが、実際に行ってみるとその情報はなく、大型マートに買いに行くと揃えました。生活用品は必要最低限のものしかおいていないので、最初はいろんなものを買ってそろえることになると思います。それも寮内の日本人の人たちと情報を共有することができ、そこから仲良くなることもできたので、厳しい条件は付くものの、いい思い出になったと思っています。私は半年の留学だったので、寮で満足していますが、一年間の留学をする人は、一人暮らしという選択でもいいと思います。どうしても共同生活であるので一人になることができないし、病気にかかってしまうと、迷惑をかけてしまうこともあります。生活の場は重要だと思うので、留学前に考えてほしいと思います。

5. イベント

啓明大学では、国際センターによるイベントの企画が多く、それに参加するだけでも非常に充実した生活を送ることができました。最初にはウェルカムパーティーが開催されました。チキンやピザ、お菓子が用意され、食べながら話して、そこで多くの知り合いを作ることができました。バディと一緒に参加することができるので、留学生だけでなく、韓国人とも知り合うきっかけになると思います。次には、慶州(キョンジュ)旅行がありました。慶州という場所には、韓国の伝統的建造物が多く残っていたり、世界遺産があったり、韓国の歴史的側面に触れるにはぴったりの場所でした。日本で言う京都のような場所であると思います。韓国にいて、伝統的な場所に自分から行くには、費用もかかるし、交通手段の手配も大変であると思うので、こういう機会があつてよかったです。そして、6月の初めには文化祭がありました。3日間開催され、一番の見どころはアーティストによるパフォーマンスであったと思います。その日は屋台も出店していました。日本では考えられないぐらいの大規模なイベントで、感激することばかりでした。今年はOH MY GIRL、VIVIZ、JESSI、CRUSHなどの豪華な人たちが出演し、会場を盛り上げてくれました。ステージの演出もとても大規模で、1日目はウォーターボムというイベントとの同時進行であったので、放水車が用意されており、ステージ周辺は滑るほど濡れていました。水鉄砲を持っている人もいて、すごく熱狂している様子でした。そして、通日ステージからは盛り上がる場面で火の演出が出たり、水が放出されたりして、大学の文化祭なのに、ライブやフェスのようで、そのすごさに感激しました。半年の留学でもこれだけのイベントを楽しむことができるので、積極的に参加して、その熱気とすごさを体感してほしいと思います。

6. おわりに

留学したかった理由である、言語の向上はもちろん、文化を自分の身で体感するというのを啓明大学で過ごして、経験することができて本当に良かったと思います。また大邱の方言についても体感することができました。私が普段学んでいる韓国語と異なる部分を発見できたり、どういう成り立ちでこの方言を使うことになったのかなども理解したりすることができて、韓国内での文化の違いに触れ、非常に面白い体験ができた満足しています。そして大邱の人たちの親切さにも触れるきっかけとなったと思います。KTXでの出会いだけでなく、訪れたお店では親切な対応をいつもしてくれたことが記憶に残っています。そして、啓明大学で、同じことを学びに来ている留学生と交流できたというのも、とても貴重な経験となったと思います。この出会いと経験を大切にして、これからも韓国語の学習をもっとしていきたいと思いました。そして、将来の働いている時に、韓国語だけでなく、留学での経験も活かしていきたいと思っています。

帰国報告書

学部	経済学部	学科	経済学科
留学先大学	韓国・啓明大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2022年2月～2022年6月(約4か月)		

1. はじめに

私は2月16日～6月23日の1学期に韓国の大邱(テグ)にある啓明大学に留学しました。出発日の16日は成田空港～仁川空港でした。成田空港での出国審査では①ワクチン接種証明書②72時間以内に受けたPCR結果証明書③VISAが必要でした。また仁川空港到着後には毎日朝9時と17時に熱を測りそれを入力するアプリを入れ、韓国の規定である10日間の隔離をするため隔離会社が用意したバスに乗り大田(テジョン)で隔離しました。隔離期間中は基本的に外出不可能で、隔離期間中に行われる計3回のPCR検査の時だけ外出が可能でした。隔離中は毎日10時・17時の2回食事が部屋のドアの前に置かれます。隔離終了後は隔離会社のバスで啓明大学まで送っていただきました。

2. 学校生活

留学期間は寮で生活することになっており、寮に入寮するためには空港の入国審査同様にワクチン接種証明書、隔離終了直前の受けたPCRの検査結果、またその他にも結核検査結果が必要でした。寮は生活館と国際寮の二つがあり、生活館は費用が安いですが2人1部屋かつシャワールームとトイレが共用になります。私は国際寮の部屋で生活していました。部屋は2人部屋で、寮は基本的には同じ国同士の方でなるのですが私は日本人がほかにいなかったため違う国の方と一緒に生活していました。また国際寮では、1階にジムや勉強スペースも併設されており快適に生活することができました。寮では朝・夜の食事をつけることができますが私は付けずに校内にある学食で食べるが多かったです。また、学校の周りには飲食店が多いので食事に困ることはなかったです。啓明大学にはバディ制度があり、日本人には日本語が話せる啓明大学在学学生が私生活のサポートをしてくれるのでわからないことがあったら聞くことができるので積極的にコミュニケーションをとっていました。私のバディは同い年だったこともありすぐ意気投合できました。

3. 日常生活

韓国ではキャッシュレス化が進んでいるため、学校側で留学生に対して銀行口座の開設も手伝ってくれました。学校の東門のすぐ近くに大邱銀行があり、そこで口座を作ることができました。韓国では銀行口座開設するために外国人は外国人登録証がないと開設の手続きが複雑になってしまうため大学側の案内で作ることをお勧めします。大学の案内に沿って開設手続きをすることによって外国人登録証がなくても口座を作ることができました。銀行口座開設のほかにも外国人登録をするのも韓国では必須で、外国人登録証が身分証明書の代わりになります。外国人登録証はアプリを利用するための登録やワクチン接種、PCR検査など様々な事をするために必要になります。これも大学側で手続きの案内があるので大学にお願いしました。外国人登録証の発行には申し込みから完成までに1か月ほど時間がかかりました。韓国では日本で使っている携帯のネットワークは利用できないため韓国で利用できるようにSIMカードを変えたり、韓国の携帯会社で新しく契約する必要がありますが留学前でも韓国で利用できるSIMカードを契約できる会社があり私は事前にその会社に申請してSIMカードを入手していました。韓国に着いてから携帯会社で契約しようと思っても契約には外国人登録証が必要で、携帯会社にいってもすぐには契約することができず、私生活に支障が出るので留学前の韓国に着く前に契約しておくことをお勧めします。

啓明大学の周りには飲食店やカフェ、隣の駅にはE-MARTという大きなスーパーもあり私生活に必要なも

のはすべてそろえることができました。また啓明大学がある江倉駅(カンチャン)、啓明大駅(ケミョンデ)の最寄り駅2つから地下鉄で約 20 分の場所には大邱の繁華街である東城路(トンソンロ)もあり衣類をそろえたり、友達と遊ぶ場所も多いので啓明大学はいい立地にあるといえます。

4. 授業について

学校では語学堂と呼ばれる、韓国語を母語としない外国人たちが通う韓国語学校に通い、韓国語を学習しました。そこでは、TOPIK 1 級から 6 級までのレベル別にクラス分けがされておりテストに合格すると、進級していくというシステムでした。語学堂は月曜日～金曜日の平日に授業があり毎日 4 時間授業を受けました。語学堂では級によって授業時間が変わっており、1, 2 級の人には午後 13 時 20 分から 17 時 20 分が授業時間で、3～6 級の人には午前 9 時 20 分から 13 時 20 分で授業が行われていました。また、1 度自分の級が決まってしまうと変更することができないので、最初に行われるプレイスメントテストで自分の実力を発揮することが重要になってきます。語学堂の授業中は基本的に母語の使用が禁止で、韓国語だけを使うことがルールでした。授業では韓国語の基本会話で使用する文法や韓国の伝統や歴史なども学ぶことができました。また、いろいろな国の人たちと一緒に受けるので授業中や休み時間などにいろいろな国の話を聞くことができることも良い経験になりました。語学堂にもテストがあり、中間テスト、期末テストのテストがある他、普段の授業の出席率や毎授業ごとに行われる小テストの結果の 4 つで評価されます。出席は 8 割以上の出席が必要でそれ以下の出席率の場合その時点で自分が授業を受けている級に合格することができません。テストでは授業で使用するテキスト全 20 課の内 1 課～10 課が中間テストで出題され、期末テストでは 1 課～20 課の全範囲から出題されました。合格にはテストの結果が大半を占めますが小テストや出席率など日々の積み重ねも重要になってくるので毎日出席し、毎日復習と予習をすることを心がけました。その結果、良い成績をもらうことができました。また、啓明大学では語学堂ではなく、韓国語の能力に関係なく一般の授業も履修することができます。一般の授業にも韓国語文法の授業があったり、留学生は学部に関係なくすべての授業を履修することができます。体育、経済、経営、第二言語など様々な授業を受けることができ、語学堂を選ばなくても韓国語を勉強できたり、自分の興味のある授業も履修することができるので自分は語学堂で勉強することを選びましたが一般の授業を履修することを選ぶのもいいと思いました。また、語学堂で授業を受ける場合、一般の授業は履修することができないためどうしても日本に帰国後の単位認定数が少なくなってしまうので自分の現在の単位数と相談しながら語学堂か一般の授業を履修するのか決めてほしいと思います。

5. イベント

春学期にはイベントも多くありました。4 月には語学堂ではクラスごとに近くの遊園地に行ったり、啓明大学は桜でも有名なのでクラスのみならず桜鑑賞をしたりしました。5 月には文化祭があり、文化祭は計 3 日間行われました。1 日目は散歩大会、워터밤(ウォーターボム)、EDM 파티(EDM パーティ)がありました。2 日目はダンス部によるダンス披露、歌手の 10 cm とアイドルの(G)I-DLE が来ました。3 日目はアイドルの IVE と PSY が来ました。学園祭の中では 3 日目が一番人が集まっていたり人数制限がされるほどで、規模が大きくて楽しむことができました。

5 月はほかにも留学生に向けた体験学習があり、慶州(キョンジュ)という場所にも行きました。慶州は昔の韓国で 1000 年続いた首都だった場所で世界遺産都市にも制定されている場所であり歴史的建造物がたくさんありました。雰囲気としては京都のような場所でガイドが昔の話を交えながら案内してくれるので韓国の歴史に触れることができいい経験ができました。

6. 終わりに

啓明大学での1学期という短い期間の交換留学でしたが非常に楽しく、文化の違いも肌で感じ、有意義なものになったと心から思います。私はこの留学では韓国語を上達させること、韓国での生活を通じて韓国の文化を知ること、韓国の歴史を辿り日本と韓国の関係についてより深く知ることが目標・目的として出国しました。この留学を終えて自分の留學生活を振り返ると、韓国語の勉強を楽しみながら毎日継続してすることができただけでなく、母国語以外の言語を使って意思疎通を図ることができるようになるまで上達することができたこと、留学の目標であった日本と韓国の関係についてもより深く知ることができたので良い留学になりました。この留學生活は、様々な方の助けがあってこのような充実した生活を送ることが出来たと思います。この留學で学んだこと、経験をこれから生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



【大学構内の桜】



【慶州・世界文化遺産の仏国寺】

帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	比較文化学科
留学先大学	韓国・韓南大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2024年2月～2024年6月(約4か月)		

留学始め

留学初日は成田空港から仁川空港まで啓明大学に留学する3人と一緒に行き、仁川空港で韓南大学の先生達が迎えに来てくださったので同じ韓南大学に留学する留学生達と一緒に学校専用のバスに乗って大田まで約3時間半かけて移動しました。私は12時頃に空港に到着したのですが、留学生が全員揃うまで待っていた為、1時間半くらい空港で待機しました。学校に着いてからは寮の入居手続きがあり、ここでルームメイトが誰かわかる感じでした。ルームメイトは全員日本人で私が留学した時は日本の大学がある地域ごとに振り分けられていました。手続きが終わった頃には18時をまわっていた為、一緒に来た日本人留学生全員で夜ご飯を食べに行きました。その後、生活用品を買いに行ったりして初日は終わりました。初日は一日中バタバタしていて忙しかったです。次の日は語学堂レベル分けテストとオリエンテーションがあり、ここでバディと初対面しました。オリエンテーションではバディと一緒に外国人登録証の申請書類や韓国口座を開設する書類などを記入する作業を一緒にする感じでした。そのあとバディが大学の校内案内してくれました。3月から大学が始まる為、4日間ほど何もない期間がありました。ここで私は生活用品を改めて揃えに行ったり、大田を散策したり、ソウルにもKTXという高速鉄道を使って行ってみたいもしましたが、学校が始まったばかりの時はまだ韓国での生活も慣れなく、授業だけで精一杯になって疲れていたことも多かった為、この空白期間を有効活用して色々準備したり遊んだりするのもいいと思います。

語学堂

語学堂は月曜日から金曜日の午前9時から12時50分まで平日毎日あり、クラスは韓国に入学して次の日に行うレベル分けテストによって決まります。日本人は同じレベルにいてもクラスがバラバラになって私のクラスは約20人いる中、日本人は私だけ、モンゴル人1人、他ベトナム人という感じでした。どのクラスもベトナム人の割合が一番多かったです。最初の頃はベトナム語しか周りから聞こえず、孤独感をすごく感じてしんどいこともありました。ただ授業内で交流する場面も沢山あり、時間が経つにつれ韓国語で沢山話しかけてくれたので最終的にはベトナム人の友達もできました。授業内容はspeaking、listening、reading、writingと大きく分けて4つの内容がありました。先生に指名されて発言する機会も多く、主にTOPIK対策の問題が多かったです。listening、reading、writingの中間、期末テストは授業を理解していれば解けるような問題ばかりでした。中間のspeakingテストは先生が質問した答えを韓国語で答えるインタビュー型テストでした。これは今までにやったことのないテストのやり方だった為、テスト対策が大変でした。期末のspeakingテストは自分の故郷についてパワーポイントを作って韓国語でプレゼンをするというものでした。プレゼンを韓国語ですること自体やったことがありませんし、台本も見ずにやらなくては行けない為、語学堂のテストの中で一番時間をかけて対策しました。語学堂では、新たな文法なども習うことができますし、毎日通うため韓国語を話すことが習慣となり、他の国の留学生達とも多く交流できる為、語学堂に通って本当によかったですし、得たものが沢山ありました。

留学生向け開講授業&学部授業

留学生向け開講授業は日本人留学全員必ず受ける授業で、今年度新しく韓国に来た7人で授業を受けました。内容は韓国の歴史、年中行事、文化などを自分たちで調べてパワーポイントを作り、毎回授業で順番に発表していくという感じでした。また外に出て歴史館などを見に行く課外授業があった

り、日語日文学科という日本語を学ぶ学科の1年生達と一緒に交流しながら受ける授業の日もありました。中間テストはレポートで期末テストは筆記テストという形でした。この授業では韓国のことについて色々な面から知ることができました。

学部の授業は自分達で取るか取らないかを履修登録で決めることができますのですが、取れる授業も語学堂と被らないようにしないといけない為、最初から限られていました。私は日語日文学科の4年生が受ける日本語プレゼンテーションという授業を受講しました。この授業は基本的に日本語で行われるのですが、中間テストは韓国人学生達と協力しながら1つのパワーポイントを作り上げグループ発表をし、期末は1人でプレゼンをするという感じでした。この授業では韓国人学生とも沢山交流できましたし、プレゼンのやり方を学ぶことができました。

寮

寮は学校の敷地外にあります。学校の目の前に位置しています。部屋は3人1部屋で日本人同士、今年度は日本の大学がある地域ごとに部屋が振り分けられていました。部屋には各机とベッド、鍵付き収納棚、シャワー室、洗面台、トイレはありますが、生活用品などは基本的に何も無い為、自分たちで揃えなければなりません。また掃除は一応してありますが、最初入居した際埃などが凄かった為、私たちの部屋は掃除用具を買いに行き、初日から部屋を掃除しました。掃除用具などがあると便利だと思います。布団はお金を払いますが寮から借りることができました。各階に共有スペースがあり、そこには洗い物をするシンクと水、お湯が出るウォーターサーバーが設置されています。冷蔵庫もあるのですが昨年度に使用禁止になり今年度も使用禁止のままです。その為何も保存することができなく、これが寮生活で一番不便でした。地下一階には共有ランドリールームと電子レンジが2つある共有スペースがあります。ランドリールームには洗濯機2つ、乾燥機1つ、アイロンがあり洗濯は毎回1200ウォン払わなければいけません。また支払い方法もアプリじゃないとできない為初期設定が大変でした。これは部屋ごとで違いますが、私たちの部屋は共通して使うものは3人でお金を出し合って共有して使うようにしていて、この方法がすごく良かったのでルームメイト達と話し合っこのような方法でやることをお勧めします。

イベント・プログラム

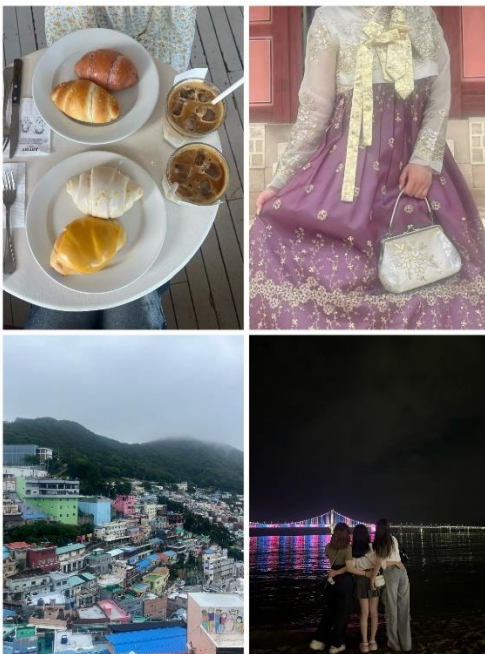
私が留学していた期間中に多くのプログラムやイベントがありました。今から紹介するのは全て自分で参加の有無を決めることができます。まず3月後半には5月にある大きな学祭とはまた別にミニ学祭と呼ばれるイベントがありました。これは入れる人数が決まっている為、早めに行き並びたいといけませんでしたが韓南学生であれば入ることができ、ホールで行われ、サークルの発表や学部の出し物、KPOPアイドルやソロアーティストも来る豪華なイベントでした。今年度はKISS OF LIFEとROY KIMのステージを見ることができました。4月中旬には語学堂の方で文化体験プログラムとしてエバーランドに行きました。ここでは他の国の子達と仲良くなれる機会でもあり、共通言語が韓国語の為、韓国語を物凄く活用するいい機会になりました。エバーランドの中では自由行動だった為、乗り物も好きなように乗りましたし、パンダも見に行くことができました。4月末には国際交流チームが主催する交換留学生対象の1泊2日の旅行があり、今年度は春川に行きました。アクティビティも沢山あり、旅行では行けないような場所に行くことができたのですごく楽しかったです。また5月中旬には日語日文学科が主催する日本人留学生歓迎会がありました。ここでは日語日文学科の学生達とゲームなどをしながら交流することができ、日本語と韓国語を混ぜながら話していました。韓国人学生とあまり関わる機会がない為、多くの韓国人学生と話せるいい機会でした。そして5月末には3日間開催される学祭があり多くのサークルの出し物やキッチンカーなどが来ます。今年度はILLITやNMIXXをはじめとする多くのKPOPアーティストが来て、韓国ならではの学祭の雰囲気を感じることができ、すごく楽しかったです。その他にも国際交流チームの先生方が不定期に食事会を開催してくださって美味しいご飯屋さんまで連れて行ってもらったりもしました。

日常生活

私はこの留学期間中になんでも挑戦してなるべく外に出るということを心がけていた為、多くの人と交流することができました。最初はバディしか韓国人の友人がいませんでしたが、バディが友人を紹介してくれたり、私はルームメイト達と仲が良かった為ルームメイトのバディともすぐ仲良くなり、さらに友人を紹介してくれてどんどん友人関係の幅が広がっていきました。私の周りにはいい人ばかりだったので環境に本当に恵まれて、貴重な経験を沢山することができました。私たちがイベントに参加していたらいきなり話しかけて来てくれて仲良くなった友人もいますし、交流会を通して仲良くなった友人もいます。韓国語力も韓国人の友人と沢山遊んで伸びた部分が多いと感じています。またチケッティングに初めて挑戦して好きな KPOP アイドルのコンサートに行ったり、旅行が好きなので1人旅行も友人との旅行もして趣味も本当に充実させていました。自分から行動すれば本当に色々な経験をすることができるので留学期間中はなるべく寮に閉じこもらないで外に出て色々な人と交流することをお勧めします。

まとめと今後について

今回の留学を通して4か月間という短い期間でしたが留学に来る前は想像もしてなかったような経験を沢山することができました。大田はどんな場所なのか最初は全然わかりませんでしたが、ご飯などを沢山サービスしてくれる本当に優しい人達が沢山いる街でした。また日本人があまりいない為、生活しているだけでも自然と韓国語力が伸びます。韓国の真ん中に位置している為どこに行くにも行きやすく、旅行するのももすごく便利でした。知り合いもいなく1人で不安だった留学初日から本当に沢山の人の助けられて大変だったことがあまり思い出せないくらい毎日が幸せで楽しい日々でした。海外で過ごした経験、この留学で得たことを今後将来やりたいことに繋げていきたいです。



帰国報告書

学 部	看護学部	学 科	看護学科
留学先大学	韓国・韓南大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2023年 2月 ～ 2023年 12月(約10か月)		

初めに

2023年2月から2023年12月までの約10ヶ月間の留学を終え、語学力のみならず、精神面や思考力においてもさまざまな面で大きく成長できたと実感することができています。留学に行く前には、実家でしか暮らしたことがなく、海外に行ったことがない自分が約10ヶ月間、一人で暮らしていくことができるのか毎日とても不安で仕方ありませんでした。

留学メンバーで協力し、留学直前まで事前調べをしながら最大限の準備をしたと思っていましたが、当日からさまざまなハプニングに見舞われました。仁川空港から韓南大学まではバスで3時間ほどかかるため、韓南大学が空港ピックアップを準備して下さっていましたが、空港ピックアップの時間と飛行機の到着時間が合わないことから、自分達でバスのチケットを現地購入し、韓南大学まで向かうことになっていました。しかし、当日にチケットを購入しようとしたところ時間も遅かったためか全て売り切れてしまっており、バスで韓南大学まで向かうことができなくなってしまいました。他のバスターミナルまでバスで向かうか、電車で向かうかさまざまな意見を出し合い、電車と高速鉄道を乗り継ぐことで無事に到着することができたのですが、海外留学では協力し、いかに早く解決案を探せるかということがどれだけ重要であるのかを実感することができました。

韓国に到着してからすぐにオリエンテーションがあり、バディとの顔合わせを行ったのですが、外国人登録証の手続きに同行してくれたり、履修登録をしてくれたり、韓国語能力が必要となる手続きなどの際に横にいてくれることはとても心強く、安心することができました。また、それだけではなく、大学の近くの美味しいお店や繁華街を紹介してくれたり、生活していく上で必要になるアプリを紹介してくれたりなど気遣いにも感動しました。

語学堂

学習については、オリエンテーションが終了するとレベル分けテストが行われました。先生と1対1で簡単な会話を行った後に筆記試験を受け、それらの結果に応じたレベルで授業を受けることができるので、自分のレベルに合わせた授業が受けられることがとても良かったです。クラスは1クラス20名ほどで構成されていますが、8割ほどがベトナムの学生で占めており、韓南大学の語学堂に通う学生も8割ほどがベトナムの学生でした。ベトナムの他にもモンゴルやウズベキスタン、中国、カンボジアなどの学生がいましたが、どの国の学生も日本についてよく知っており、気軽に話しかけてくれたのが印象的でした。他国の生徒から日本人の私が知らないようなアニメについて質問されたり、授業内で世界で有名な各国の歴史人物、各国でいま流行っていること、各国で有名な市場などといった自身の国について問われることも多くありましたが、他国の生徒に比べすぐに回答することができなかつたりすることも多く、自身の国のみならず、韓国を含めた他国の文化についても今まで以上に関心を持たなければならないと感じました。また、他国との文化の違いに対して難しさを感じることもありました。

語学堂では、語学力の向上のみならず、各クラスの成績優秀者や3級以上のTOPIK合格者に対し奨学金の支給を行ったり、5級以上のTOPIK合格者に対し大学の入学費免除を行うなど、さまざまなサポートが行われていました。日本では語学堂のように大学附属の学校で語学を学べる場所がなく、留学生は日本の

大学生とともに講義を受けなければなりません。しかし、語学堂のようなシステムがあることによって、日本語があまりできないけれど日本で日本語を学びたい学生や、日本の大学に通いたいけれどまだ日本語に自信がない学生なども日本への留学を決めるきっかけになるのではないかと考えます。実際に今年度から日本に留学する学生と話していたところ、留学に来て日本人の学生と同様の授業を聞ける自信がないため、一緒に講義を聞いてテスト勉強のサポートして欲しいと言われたことがありました。語学堂のような制度があれば、交換留学で日本に来たとしても語学堂で日本語を学び、さらに学びたいと関心を持った生徒は日本の大学に入学や編入をすることができるのではないかと考えます。また、日本語はできないが、アニメーションなどで日本に関心を持ち、いつかワーキングホリデー制度を利用し、日本に行きたいという学生もいました。語学堂があればこのように少しでも関心を持つ外国人が日本への留学をしやすくなるのではないかと考えます。

秋学期には日韓交流会やバディなどを通し、韓国人の学生との交流が増えたことで毎日が充実していました。日本では同じ学部だとしても先輩・後輩の関わりは多くありませんが、韓国では入学と同時に MT と呼ばれる先輩・後輩とが交流する場が設けられていました。その他にも各学部ごとに演劇などの出し物を行う学術祭、各学部ごとで出場する体育祭などがあるため、日本よりも先輩・後輩が積極的に関わることができている印象でした。さらに、学術祭や体育祭、日韓交流会などのイベントは各学部から選挙で選ばれた学生会の生徒が運営しており、生徒が主体となって学校を作り上げているのも印象的でした。

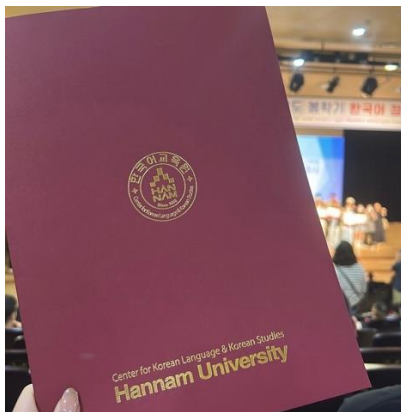
秋学期には語学堂の他に日本語通翻訳の授業を受講しました。韓国人の学生とともに授業を受けるため、授業のレベルも高く、韓国語を聞き取ることで精一杯な部分もありましたが授業方式や内容も日本とは異なる部分が多く、とても勉強になりました。韓国の学生と共に授業を受けるにあたり感じたことについて、韓国では現在も兵役制度が導入されているため、男子学生は受験が終了し、大学に上がるタイミングで休学をする学生や1年生で休学をし、兵役に行く学生が多い印象でした。そのため、同学年でも年齢が違うということが多く、それらが大学生生活の選択肢の幅を広くしているのではないかと感じました。中には、自分のやりたいことは何かを見つけるために休学をする学生、講義を聞いたところ自分の学びたい分野ではなかったために編入を考える学生、今年卒業だが取得したい資格があるため、すぐに就職はしないなどという学生も多く学生の選択肢が多いことが印象的でした。

日本では同学年の大半が同級生であることから、同学年で年齢が違う学生は浪人や留年をした学生という印象が強いように思われ、新卒でなければ就職しづらいという条件なども含めると休学や新卒で就職しないことはマイナスなイメージで捉われることが多い印象です。しかし、自分のために大学に通っているということを考えてみると、自分が学びたいことではない講義でなかったのならば同じ大学に4年間通わずに編入をすることも候補に入れる必要があるのではないかと、やりたいという自分の意志を優先させるということも時には重要なことであるのではないかと、よく考えてみれば当たり前のように聞こえることですが、気付かさず、考えさせられるきっかけになりました。私も看護学部という専門学部であることから大学在籍中に留学に行くことが正しいのかについてとても悩みました。しかし、留学中には私の将来について影響を与えてくれる出来事、出会いが多くありました。これらの考えは、今回の留学を経験したからこそその考えであり、留学に行くということを選択しなければ出会うことのなかった考えだと思います。日本の学生が当たり前には捉われないような視点を持ち、行動することができたら、大学生の夢や選択肢がより広がり、新卒が好条件といった社会的な当たり前すらも変えることができるのではないかと考えます。

まとめ

最後に、日本の講義ではどの語学においても単語や文法などに重きが置かれていることや、日本での韓国語学習者が少ないことから、リスニングやスピーキングの機会を得ることは難しい現状があります。そのため、

今回の留学では、留学を通し積極的に現地の学生と関わり、韓国語に触れることで学習意欲をより一層高め、自身の弱みであるリスニングやスピーキングを克服していくことができることを目標としていました。目標を達成するために、怖がらずに一人で外出する機会を増やし積極的に韓国語を使う場面を増やすこと、パディとの会話においても積極的に韓国語を使用すること、また、分からなかった単語や文章をまとめるノートを作ることで自分が理解できない部分を把握することなどを行いました。後期には韓国の学生と関わる機会が増えたことや、語学堂以外にも学部での授業を受けていたことなどからか、前期に比べ、リスニング・スピーキング共に大きく成長したと感じます。留学に行く前には不安でいっぱいでしたが、日本で暮らしていると実感することが難しい部分であった、日本のおもてなし文化や清潔な環境、食文化などの素晴らしさについて改めて感じることができたこと、留学を通し自分自身と向き合うことができたことなど、想像以上に学びが多く充実した10ヶ月を過ごすことができました。



帰国報告書

学 部	人間共生学部	学 科	コミュニケーション学科
留学先大学	韓国・韓南大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2022年2月～2022年12月(約10か月)		

1. はじめに

私は2月14日～12月17日までの10か月間、韓国の大田(テジョン)にある韓南大学に交換留学を行いました。成田空港から仁川空港に入国した際は新型コロナウイルスが大きく影響していて、特に入国の際は検疫がかなり複雑でした。SIMの解除と開通、新型コロナウイルスの陰性証明の登録などに時間がかかり空港では大変な思いをしました。入国審査が終わってからは一週間の隔離がありました。大学側が提携している隔離会社にお願ひし、空港からタクシーのようなもので大田にあるアパートの一室まで送ってもらい、一週間毎日届けられるご飯を食べて過ごしました。韓国の冬はととても寒く、気温は継続して氷点下を記録していましたが床暖房がつかなくなってしまい、過酷な隔離を終えた後は大学の寮に送っていただきました。

2. 寮生活

韓南大学には複数の寮がありましたが、私たちは規定されていた国際寮であるシビリーハウス2という寮に住むこととなりました。日本人の学生以外にもベトナム人や中国人、モロッコや英語圏からきた学生もいました。国際寮は玄関をでてすぐに大学の敷地内に入る門があり、国際センターや語学堂の授業を行う建物までは徒歩5分ほどの立地でした。大学の周辺は多くの飲食店や居酒屋、カフェなどがあり、不便なく生活することができます。部屋は三人で一つの部屋を利用しました。日本人の学生が多いため、私は常に日本人の学生と部屋を利用しました。また10か月の間で1学期と2学期の間の夏休み二か月ほどの間は、大学内にある寮に引っ越しをして住みました。普段の学期中には韓国人の学生が住んでいる寮で、部屋は4人用でしたが私たちは3人ずつで利用させていただきました。夏休みが終わるとまた国際寮に引っ越しを行いました。寮の中には共用旧家室に電子レンジとウォーターサーバーがあり、コンロは使うことができません。また各部屋に電気ポットなどの家電製品を置くことは禁止されていました。門限があり、夜11時を過ぎる場合や外泊をする際は外泊申請が必要でした。また夜12時から朝5時までは寮の門が閉まっているため出入りすることはできません。寮の中には自動販売機などもないため、夜食を食べたいときは必ず事前にお買ひしておく必要がありました。また洗濯機と乾燥機がありますが一回1000ウォンずつかかり、特に土日は利用者が多く3時間ほど待つこともありました。

3. 日常生活

生活に必要な外国人登録書、銀行口座の開設などはバディに手伝ってもらいながら学校を通して申請しました。韓国は基本的に外国人登録書に登録されている個人番号と電話番号があれば多くのことがスマートフォン一つで解決するようになっていきます。銀行の窓口に行って申請を行えば銀行口座をアプリケーションで管理することができるようになり、友達やお店への送金なども楽に行えます。また出前や通販などの買ひ物も簡単に行え、生活がかなり便利になります。またほとんどのお店でクレジットカードが使えます。現金はほとんど持ち歩く必要がなく、交通マネーにチャージをする際以外はほとんどすべての手持ちの現金を銀行に預けて生活していました。また大学付近にはバス停があり、三種類のバスがそれぞれ10分程度の間隔で運行しています。ソウルなどに行く際に利用する大田駅までは最寄りのバス停から15分ほどで、他にも洋服屋さんが多くあるウネンドンやトウンサンドンといった地域にもバスで簡単に出ることができます。バスも日本に比べるととても安く、タクシーもあまり料金が不高いいため荷物が多い時や急いでいるときはタクシーを利用しました。またバス

で 10 分、歩いて 20 分ほどのところにバスターミナルがあり、高速バスで少し安く郊外にも行くことができました。またバスターミナル付近に大きなダイソーと e マートという大きなマートがあり、日用品を購入することができました。また首都であるソウルまでは 2 時間ほどで、月に一度ほどリフレッシュをいかに遊びに行きました。友人と一緒にコンサートに行ったり、景福宮という観光名所にも行きました。また第二の都市であるプサンで海を見たり、水原という地域にある水原華城という世界遺産を見物しに行きました。学習は主に部屋や近くのカフェで行いましたが、大学内にある図書館や近くにあるスタディカフェを利用することもありました。

4. 授業

大学のプログラムで規定されていたのは春学期、秋学期の語学堂の授業でしたが、私は自費で 6 万円ほど払いその間にある夏学期の語学堂の授業も受講しました。語学堂は月曜日から金曜日の 9 時から 13 時までの授業が 10 週間、計 200 時間の授業で構成されています。入国して 2 週間ほどで行われたレベル分けテストは Zoom を利用した 15 分ほどの面談でした。1、準2、2、準3、3、準4、4、準5、5級があり、私は最初に準4級に割り当てられました。規定をクリアすれば次の学期に進級することができるもので、春夏秋と受け準5級のクラスを終了して帰国しました。級によって授業の内容は異なりますが、私が受けていたのは文法や単語を学びリスニングとスピーキングを重点的に行う授業、長文読解と作文を書く授業、TOPIK(韓国語能力試験)の対策授業の三種類に分かれていて、三人の先生が時間割に沿って授業を行ってくださいました。語学堂の先生たちは英語や日本語、中国語など韓国語以外の言語も話すことができる先生が多いですが、基本的に韓国語以外の使用は禁止でした。先生方の中には TOPIK の採点の資格を持っている先生もいて、個人的に問題集の筆記問題を解いて持っていくと採点をしていただけ、わからないところはわかるまで丁寧に教えてくださいました。作文は自分でミスを見つけることや点数をつけることが難しいため、とても助けられました。クラスはベトナム人が大半で、それ以外にはモンゴル、ウズベキスタン、中国、オーストラリアなどの留学生がいました。韓国語または英語で開講されている一般の学部の授業もとることができますが、私は韓国語の学習に力を入れたかったため春学期は受講しませんでした。秋学期には日本人留学生向けに開講された講座があり、語学堂の授業に加え二つの科目を履修しました。日本語を話すことができる韓国人の先生による授業で、できるだけ韓国語で話すというルールでした。韓国語の理解という授業では主に韓国語の文章を読み、それを日本語に訳す練習を行いました。内容をただ理解するだけでなくきちんと解釈をして自然な日本語に直す必要があり、語学堂の授業では行わない和訳という練習を通し韓国語の理解を深めました。韓国社会の理解という授業では大学のある大田や首都であるソウル、釜山などの地域についての学習や韓国の世界遺産に関しても学習を行いました。校外学習にも行き、大田にある建物にいき展示やガイドさんの話を聞きました。特に日本では学ぶことのできない韓国からみた北朝鮮の印象や日本に対する印象などを学ぶことができました。語学堂と並行して受講したため一日に授業が 7 時間ある日もありました。特に秋学期の語学堂は課題も多く、TOPIK の受験もあったため授業以外の学習はほとんどできませんでした。

5. TOPIK 受験

私は 10 月と 11 月に実施された TOPIK(韓国語能力試験)を受験しました。夏頃までは帰国してから受験しようと考えていましたが、日本では年に 2 回ほどしか開催されないため友人と一緒に申し込みを行い受験を決意しました。語学堂の授業が TOPIK の対策に焦点を当てたものであったため、授業にきちんと取り組んでいけば自然と点数は伸びるようなカリキュラムになっていると思います。私は語学堂のカリキュラムでの最高クラスである 5 級のクラスが受けられずに帰国することが決まっていたため、5 級の学生たちが TOPIK 対策の授業で利用する問題集を購入し、先生にお願いして理解できない部分の解説や記述問題の部分の採点をお願いし、個人的に勉強を進めました。単語は単語帳とアプリケーションを利用して学習し、問題演習を繰り返しました。先生に勧められた速読の練習や音読練習、リスニング問題の本文のシャドーイングなどを通して練習を続けたことで、いい成績を修めることができました。

6. おわりに

留学以前に決めていた目標は韓国語力の向上と、韓国の歴史と文化について韓国側の立場からも学ぶということでした。語学力に関しては、特にリスニング力とスピーキング力が大きく成長したと感じます。勉強にきちんと集中できる環境であったため、TOPIK の級も取ることができきちんと成果をだすことができました。歴史と文化については、特に秋学期に履修した韓国社会の理解が大きな助けになりました。先生にお願いしたところ、大学の歴史学科から韓国の高校の韓国史の教科書をいただくことができました。言語能力を身につけ、さらに多文化理解を深められたとても良い経験となりました。この経験を生かしていけるよう善処したいです。

帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	比較文化学科
留学先大学	輔仁大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2023年9月～2024年6月(約9か月)		

はじめに

私は2023年9月から2024年6月の間、台湾の輔仁大学に交換留学をし、帰国いたしました。この留学を選んだきっかけとしては、高校生のころから留学をしたかったという思いや今後のグローバル社会において、異文化への理解の仕方を深めたかったこと、自分自身の中国語力を向上させたいという思いから今回、輔仁大学へ交換留学いたしました。そして私は、この交換留学を通して生活面、中国語力、異文化交流や異文化に対する理解の仕方など多くの力を身に着け、自分自身の大きな成長を感じることができました。留学前、私の留学に対するイメージとしては、語学力の向上をメインに勉強し、日々を過ごし、そのなかで、異文化交流をしていくのだろうと考えていましたが、実際は、語学力の向上よりも、困難にぶつかったときの自分との向き合い方や、人との付き合い方、言葉の壁にぶつかったときの苦しみや乗り越え方をこの一年間で大いに学びました。

生活面

まず初めに、私が留学期間で日本の生活と比べて一番大きな変化があったことは生活面です。街の中にいる人たちの話している言語も違うし、お店のメニューも何もかもが中国語で最初は注文するにもメニューを写真に撮ってそれを見せながら注文するなど、自分の言葉で話せませんでした。また、今回の留学では、ホームステイなどではなく、学校の敷地内になる寮に入りました。寮の生活に慣れることにも時間がかかりました。寮の部屋は、ひとつの空間に2段ベッドが2つあり、長い机も2つあり、机はルームメイトとシェアして使っていました。水回りも日本と比べると決して綺麗と言える環境ではありませんでした。この環境に初期の私は、「留学生活だしこういう生活もなかなか出来ない」と思いなんとか生活していましたが、留学の後半になるとなんでこういう環境何だろう、やもう本当に嫌だなと思うことが増え、前学期のように割り切れなくなっていた時期もありました。しかし、そんな寮の環境だったからこそ、いろいろなところに出かけるきっかけにもなったのではないかなと思っています。寮にいてもほぼ必ず他のルームメイトもいるし、パーソナルスペースも限られていたため、寮にいるよりも、学校のキャンパスを散歩したり、図書館に行ったり、休日はほとんどでかけたりしました。やはり思い返すと寮での生活は正直すごく大変でしたが、改めて振り返ると、そのおかげでいろいろなところへ足を運び、さまざまな景色を見て、心残りが無い留學生活にすることが出来たのではないかなと思っています。これらの外出を通して、台湾の公共交通機関の乗り方や、台湾の地形もたくさん覚えました。台湾に来た当初は、まさか自分が一人で台湾を歩ける日が来るなんて思ってもいなかったし、電車やバスを乗り継いで出かけるようになるなんて全く思ってませんでした。しかし、台湾生活、2ヶ月経ったくらいには、一人でお出かけができるようになり、今では、台北以外の街への行き方にも慣れ、ここまで出来るようになった自分の大きな成長を感じてとても嬉しく思っています。

学習面

私は、日文系に所属し、現地の大学生たちと同じ授業を受けていました。私が主に履修していた授業の内容として、中訳日や日訳中の翻訳の授業や、日本文学、日本の歴史について学ぶ授業を履修していました。台湾の授業のスタイルは基本的に、ディスカッションが多く、ほとんどの授業でグループを作り、メンバーと一緒に翻訳を進めたり、何かのテーマについて発表したりするなど、日本での授業に比べて、グループワークが多く、他の台湾人の学生とたくさん交流出来たことが魅力的だなと思いました。そして、私は履修した授業を通して

さまざまなことを学びました。まず、翻訳の授業では、個人の作業もありましたが、グループでの作業もありました。それぞれの形式で翻訳を進めるにはメリットデメリットがあります。個人で作業を進める際には、自分自身のまだ足りない力を明確に発見することができますが、グループワークだとメンバーとペースを合わせて進めていく必要があるため、その点の発見は厳しくなります。しかし、グループで協力する場合だと、日本人の私と台湾人のグループメンバーがいるのでお互いの母国語の修正がスムーズになります。その他にも私はこれらの翻訳の授業を通して、中国語力を大幅に成長させることが出来たと思っています。今までの中国語の勉強では出会うことが出来なかった単語や文法を新たに知り、中国語の語彙力を身につけることが出来ました。そして、他にも日本文学や歴史についても勉強しました。今までは、日本からの目線しか日本について見ることは出来なかったけど、初めて日本を客観視することが出来ました。日本を客観視することで、日本の良いところやあまり好みではないところなどの多くの発見と学びを果たすことができました。日本で勉強していたら知ることができなかった日本の歴史や台湾の学生の日本に対する思いを聞くことができ本当に貴重な経験だと毎度の授業で感じていました。他にも、私が留学した輔仁大学では、留学生向けに夜間の中国語の授業があったので、受けました。私は、この授業を活用したことで、中国語が大幅に向上したと言っても過言ではないほど、とても役に立ちました。前期は、上から 2 番目のクラスで授業を受けていました。正直この時は、あまり無理をしたくなかったので、自分のレベルと照らし合わせると正直レベルは低かったですが、その授業の中でも自分が知らない単語もまだまだあったし、その中からも自分の弱点を大いに見出すことができました。そして、後期は、1 番上のクラスになりました。前学期に比べて、急に難易度が上がって、先生の話すスピードがとても速くなったり、難しい単語がたくさん出てきたりするようになりま。後期の授業は、背伸びをして受けていて時には辛くなることもありましたが、そのクラスに入ってから、街の中や学部の授業内で、理解出来る単語の量が格段に多くなったり、集中していなくても自然と耳に中国語が入ってきて、理解できたりするようになりました。昼間の学部の授業だと、台湾人か日本人しかとの交流がありませんが、この夜の中国語の授業では、その他のヨーロッパ圏の学生や韓国、東南アジアの学生とも交流することができました。そして、授業内でそれぞれの国の文化の違いを話し合ったり、聞きあったりして、現地の若者の考えや文化を聞くことができ、とてもおもしろかったし、新たな異文化理解にも繋がったのではないかと思います。

国際交流

私は、この留学期間を通してさまざまな国籍の人と友達を作ることができました。その友達たちのほとんどは、idea という大学の国際交流団体が開催してくれるウェルカムパーティーや日帰り旅行で出会った人たちです。この交流ではほとんどみんなが英語で会話をするため、英語が苦手な私には少し大変な時間でもありました。しかし、みんな私に気をつかって簡単な英語で話してくれたり、中国語で話しかけてくれる台湾人がいたり、さまざまな人の優しさに何度も助けられました。ですが、やはり母国語以外での会話は、自分自身、心身ともに激しく疲れ、国際交流の難しさを身に染みしました。それぞれの国の文化やマナー、気の遣い方も分からず、最初はいろんなことを考え疲れてしまうことが多々ありましたが、さまざまな人との国際交流を重ねていくうちに、交流の仕方を掴むことが出来てきました。そのなかでも食事のマナーの許容が広くなりました。正直言うと日本の食事マナーは厳しいなと感じてしまいました。しかし、そのマナーを教えられて育った私は、少しストレスに感じてしまうこともありました。それも一つの文化なんだと相互の文化を理解できる価値観が身につきました。そして、ときに、台湾人の友達にご飯を誘ってくれることもありましたが、中国語のみでの会話の苦しさを思い出したり自分の心の余裕を考えたりして、食事の誘いを断ってしまうことも多々ありました。しかし、私はそれを乗り越える必要があるなと少し後悔してる気持ちもありました。それと同時に留学生活に心の余裕を作るのは難しいなと何度も考えました。私はこれらの国際交流を通じてさまざまな人たちや国籍の方たちの考え方を聞いて自分のなかで解釈して考えてみたり、日本人との考え方の違いを比較したりして、自分の将来への選択が広がりました。

おわりに

この留学期間をひとことふたことであらわすことはできないほどさまざまな経験をしたりいろいろなことを思い考えたり、多くの貴重な景色を見てきました。留学中に書いた日記を読み返すにも時間がかかるほどの経験をしたんだなと自分を誇らしく思います。また、「留学でなにが一番楽しかった」という質問には、「日常生活が一番楽しかった」と答えます。留学期間中に、台湾の有名な観光地や美味しいものをたくさん食べましたが、このようなことは、今後の人生でもできる確率が高いし、ほとんどの人が経験できることだけど、私が台湾ですごした日常はかけがえのない経験だと思っています。台湾人の学生と一緒に同じ授業を受けて、一緒に食堂でご飯を食べて、一緒に遊びに行って、同じ図書館を利用するなど、この何気ない日常生活は、今回の交換留学でしか経験できないことだと思っています。また、台湾人にとっては当たり前の日常を当たり前ではない私が、いつの間にか当たり前の日常になったことも何にも変えられない思いと経験だなと思っています。留学準備からここまで大変なことも、わくわくすること、たくさんの感情を経ましたが、この経験が今後の私の人生の大きなステップアップとなり、今後の自分の行動でさらなる飛躍をしたいです。



帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	英語文化学科
留学先大学	リンフィールド大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2023年8月～2023年12月(約4か月)		

1. はじめに

たくさんの思い出と貴重な経験の詰まった留学生活があったという間に過ぎていきました。この約四か月間本当に様々なことがあり、知識や能力だけでなく人としても成長できたと思います。一瞬だったリンフィールド大学での留学生活について、報告したいと思います。

関東学院大学からの留学生私含め四人は8月23日に日本を発ちました。10時間以上に及ぶフライトの末、アメリカのオレゴン州へ到着し現地の国際センターの方々が出迎えてくれました。車で大学のキャンパス内へと送ってくれました。その後荷物などを各々の寮におろした後、すでに到着していた他の留学生も一緒にアメリカらしいピザパーティーで歓迎会をひらいてくれました。最も初めのイベントであり不安や期待を抱きながらもスタッフ全員が明るく面白かったので楽しかったのを覚えています。またこの時にアメリカの味つけのピザを食べ、日本との違いを感じました。やはりアメリカのピザは味が濃く、油も多かったです。初日からアメリカらしいものに触れられてワクワクが増しました。大学への道中に感じた道路の広さや交通ルール、歓迎会のピザ、キャンパス内のリスなど、目に入るもの全てにアメリカらしさを感じ、留学生活がとうとう始まったのだなと実感しました。

2. 日常生活

授業が始まるまでの約1週間、IPOという現地の国際センターが様々なイベントやオリエンテーションを催してくれました。他の国からの留学生も含め、何人かにつき一人のメンターが配属され、その人とキャンパスツアーに行ったり、学生寮や入学式などいろいろなことをする期間でした。またそのなかで日本人留学生計九名の仲が深まり、他の留学生の名前も覚えていきました。授業が始まると、あっという間に忙しくなり、課題や宿題、テストの準備など、毎日やるが増え、みんな授業に熱心に取り組みました。さらに、このような課題などをやっていくと同時に、週に一回のミーティング、IPOや有志団体のイベント、自分の買い物や洗濯などの家事に至るまでを平行してやらなければならないため毎日何かやらなければならないことがあり、それを怠ると後になって手に負えなくなるほど忙しくなるような日々でした。ライティングの授業では Writing Assistant(以下WA)といってほぼ毎週一回自分のエッセイやブレインストーミングを手伝ってくれる人がいて、そのWAと会ったことを報告するレポートも書かなければなりません。また、リスニング・スピーキングの授業では Conversation Partner(以下CP)というこれも週に一回英語と日本語を使った会話をしなければならない人がいました。どちらも約一時間のミーティングで、CPとはとても仲良くなることができるくらい良いネイティブとのかかわりでした。最初の一か月くらいは大学のキャンパスが広すぎて自分の寮や食堂、施設、スーパーやコンビニなどへの道がわからず苦労しました。覚えてからもどこから出た方がこのスーパーに近いなどの土地勘を得るまではもっと時間がかかりました。この土地の広さもアメリカらしいと感じました。しかし現地の学生が言うにはリンフィールド大学の規模は小さく生徒も少なく狭いと言っていて、これでもまだ狭い方だなんてとても驚いたことを覚えています。授業にも慣れてきて宿題の多さにも順応してきてから様々なところへ行きました。ダウンタウンのお店やそのアーケードゲームセンター、ファーマーズマーケットなど、いろんな場所で買い物をしたりして遊びました。

3. ホストファミリー

他にも、ホストファミリーの家に訪問することもできました。アメリカにきて約1か月後にホストファミリーとの接触があり、早速2泊3日で泊めさせてくれました。ホストファミリーは三人家族で、猫を二匹飼っていました。猫たちは極めてシャイで最初はあまり触ることができなかつたのですがとてもかわいかったです。また、家族の一人が元シェフで日本料理も何度も作ったことがあり、何度も日本料理を含む絶品料理をふるまってくれました。食堂でのずっと同じ味の料理に飽きていたのでとても幸せを感じました。また、ホストファミリーの友人の一人がワイン農家で、ブドウ狩りの手伝いをしに行きました。重たいブドウでいっぱいケースを運んだりトラックに

そのケースを詰め込んだりと重労働でしたが農家の方や他の手伝いに来た人たちみんな優しく、おもしろかったので楽しかったです。また、オレゴンで有名なワイン作りの過程の一つに携わることができてよかったです。そしてその農家の Harvest Party では豚の丸焼きを一匹用意してくれました。目の前で一匹の豚が丸々焼かれるところを見たときはその迫力に圧倒されました。味もちろんおいしかったです。Thanksgiving Break でも大きいターキーを焼いてくれました。それもおいしかったですし、その日以降に食べた余ったターキーを使った料理も絶品でした。

4. 授業

学習面では、まずアメリカの大学は宿題などの授業時間以外の時間にやらなければならないものが多いと感じました。日本の大学では、主に授業での時間が充実し、宿題などもその授業の振り返りやテスト勉強が主なことがほとんどですが、アメリカに来て宿題は全て授業の予習であり、授業はその答え合わせや補足、発展で、新しいこともやりました。新しいことをやってもその授業のなかで補足や説明が終わり、またその次の新しいことは宿題として出され、それを次の授業で詳しく説明するという形で授業が展開されました。CP のレポートや WA のレポート、各授業の宿題、そしてテストやプレゼンテーション、エッセイなどが近づくとその準備にいたるまでを一週間のうちでこなさなければならなかったので大変でした。また、授業も全ての授業が週に二回行われ、宿題は全部次の授業が期限なのでそれも忙しさの理由の一つだと思いました。授業の人数はどれも非常に少なかったので先生も親身になって説明してくれたり話してくれるので内容に関しては特に難しくはなかったです。エッセイやプレゼンテーションは日本でやったことがあるものに比べてレベルが高く、エッセイだと 450 words 以上、プレゼンテーションではリサーチしたものを発表など、内容や分量、条件など厳しいものが多く、大変でした。また全部で三つある英語の授業のうち二つ(ライティングとアメリカンカルチャー)で 450 words 以上のエッセイを何度も書かなければならなかったので留学が終わってから改めてみると本当によくこんなにも多く頑張ったなと自分を褒めたいです。また、パソコンでの Word や PowerPoint などアプリの使い方も日本にいるときよりもより知ったと思います。ライティングに関しては、四つの種類での英語のエッセイの書き方、また英語のリソースの示し方や引用の仕方など、日本でも役に立つ内容を知ることができたので良かったです。アカデミックな単語とカジュアル過ぎてライティングでは使えない単語や文法、アカデミックな文章でした方がいいことなどライティングにおいて必要な知識と校閲能力を得ることができたと思います。自分が書いた文章を自分で見直しよりよいものに上げる添削の技術がのびたのは何枚も書きそれを添削したので確信しています。単に語彙力が増えただけではなく、その単語の使い分けなども学べたので、英語を専攻する者として興味深かっただけでなく勉強になりました。プレゼンテーションではどのようにプレゼンするのが良いのかに加えて、あるべき態度や心構え、つかみや挨拶など、プレゼンの最初から最後までやるべきことを教わりました。それを取り入れたプレゼンを実際にやってみたりと実践も交えて学ぶことができました。アメリカの文化を学ぶアメリカンカルチャーという授業ではアメリカの文化を通して日本の文化を伝えたりどこが違うのか話し合ったり、異文化理解を深めることができました。また、日本の文化を相対的に理解することにも繋がりました。授業では映画を字幕で見たり、ダウンタウンへ出向き観察してレポートを書いたり、homecoming のイベントに参加してレポートを書いたりしました。興味をもった広告を持ってきてそれに関するプレゼンをしたりなど、幅広いことを行い、それを通じてアメリカの文化、多文化の理解に努めました。十二月に入り、期末テストの週が近づいてくると、最終プレゼンやエッセイ、テストの準備でより慌ただしくなりました。それだけでなく、帰国に向けたパーティーやお土産の買い物、思い出作り、パッキングなど、やることがいっぱい気づいたら帰国前日のような速度で時間が過ぎていきました。最終的に全ての教科で最高評価を取ることができたので頑張ってきた日頃の積み重ねが報われた気がしてすごく嬉しかったです。

5. おわりに

友達との別れや寮での生活など、全く違う文化での生活が終わってしまうと思うと留学期間中ホームシックなどが一切なかったために非常に悲しくつらかったですが、最後にパーティーや帰国後の連絡手段の確保など手を尽くしてくれたので笑顔でさよならをすることができました。この留学期間でたくさんの異文化に触れ、新しい文化を学び、私の全てが一段階も二段階も成長しました。本当にこの留学することができて良かったです。



帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	英語文化学科
留学先大学	リンフィールド大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2022年8月～2022年12月(約4か月)		

1. はじめに

まず、私が留学をしたいと思ったきっかけは、私の将来の夢が英語教師なので、アメリカで英語の正しい発音を学んだり、現地の学生とコミュニケーションを積極的にとったりして、自分の英語力を向上させたいと思ったからです。また、幅広い様々な知識を取り入れ、異なる国籍の学生たちと交流し、多角的に物事を捉える力を身につけたいと感じたからです。リンフィールド大学を志望したのは、この大学ではアメリカを含む様々な国籍の学生と交流できることを知ったので、異なる国籍、様々な価値観を持った同年代の学生たちと交流して自分の視野を広げ、自分の価値観や考え方を見つめ直したいと考えたからです。

リンフィールド大学には、8月24日から12月16日の秋学期に留学しました。本大学はアメリカのオレゴン州マクミンビルにあります。周りは自然に囲まれ、比較的過ごしやすい地域でした。最寄りの空港であるポートランド空港から大学までは1時間半ほどかかるため、到着した初日は、リンフィールド大学が手配したバスに乗って大学まで向かいました。

2. 学校・日常生活

私達はキャンパス内にある寮で生活をしました。基本的に2人部屋で、ルームメイトがいました。ルームメイトは現地の学生で、新入生でしたが、日常生活だったり、英語の課題で分からない部分を教えてもらったりと様々な場面で助けてくれました。日用品に関しても必要なものは近くのスーパーで買いました。食事は、毎日 Dillin Hall と呼ばれる学生食堂でとりました。大学では Meal プランというものに加入するため、学生証があれば学食を食べることができます。こちらの学食ではビュッフェ形式で、好きな料理を好きな分だけ取りに行きます。肉や野菜、フルーツが揃っており、健康的な食生活を送ることができました。また、授業で出される課題はキャンパス内にある図書館で行うことが多かったです。図書館は寮群からは少し離れていますが、勉強する学生が多くいました。また、図書館には Study Room という小部屋が複数あり、窓口で鍵をもらえば使用することが可能です。さらに、キャンパス内にはトレーニングジムがあります。ジムは学生であれば無料で使え、基本的に毎日開いているため、とても便利でした。また、スターバックスもキャンパス内にあります。Meal プランの限度額までは、学生証を提示すれば好きなだけ飲み放題なので利用すると良いと思います。

リンフィールド大学周辺はお店が少なく、様々なお店が並ぶ通りまでは徒歩だとかなりの距離があります。そのため、少し遠くへ出かけるときは、Uber を使いました。ルームメイトが車を持っている場合はルームメイトに頼んで行きたい場所まで連れて行ってもらうこともできます。

学校生活を通して、本大学ではスペイン語話者が多いと感じました。私は関東学院大学で、第2外国語はスペイン語を選択し、学んでいました。今までスペイン語は授業の中でしか使うことがありませんでしたが、アメリカで自分の習ったスペイン語を使う機会があって、とても良い経験となりました。この経験は、スペイン語を勉強するモチベーションにもなったので、英語だけでなく、スペイン語力も向上させ、トリリンガルを目指したいと思います。

3. 授業

授業は、留学生向けの授業を受講しました。「Listening & Speaking」、「Writing」、「American Culture」、「Community Service」の4つを共通して受けました。また、「HHPA」と呼ばれる、いわゆる文化・体育系の授業

を1つ取らなければなりません。HHPA の授業には、ウェイトトレーニング、ヨガ、歌、ギターなど様々で、私はウェイトトレーニングのクラスを取りました。Listening & Speaking と Writing は、英語のレベル別に2つクラスがあり、クラスによって講師や教科書、授業日程も異なります。

Listening & Speaking の授業では、主に教科書を使って授業が行われました。毎回課題として教科書の問題を解き、授業のグループワークのなかで解答の確認していました。教科書の問題では短い学術的な講義の朗読やビデオが含まれ、それを視聴してノートテイキングするということが多かったです。この繰り返しにより、リスニング能力が向上しました。また、発音の練習も授業内で行いました。似ている発音や日本人が苦戦する発音などをプリントを使って練習しました。今学期では、発音のクイズが2回あり、自分の発音を録音して提出しました。さらにプレゼンテーションは4回ありました。プレゼンごとにテーマは異なり、毎回6分から8分でまとめる必要がありました。

Writing の授業では、教科書を使ってパラグラフやエッセイの書き方を学びました。パラグラフ、エッセイそれぞれの構成要素や様々な文法構造など、自分のライティングスキルを向上させるために大切なことを多く学ぶことができました。課題としては、学期前半はパラグラフ、学期後半はエッセイを提出していました。まず、First draft という自分の最初のライティングを作り、課題として提出します。その後、講師からのフィードバックがもらえるので、それを踏まえて自分のライティングを修正し、Final draft として提出します。また、授業では、MLA スタイルという引用文献の書き方を学びました。アメリカではよく使われるスタイルだそうで、私はアメリカに来て初めて使ったため、書き方に苦戦しました。

American Culture の授業では、アメリカの文化について理解を深めました。主に教科書を使って授業が進みました。また、講師による授業だけではないのがこのクラスの魅力です。アメリカの文化を自分の目で確かめ、体験するために、大学を出て校外学習を行います。例えば、ダウンタウンの Farmers market や小学校などを訪れ、文化の違いを調べたり、体験したりします。この体験したことをエッセイにまとめ、課題として提出していました。Writing の授業と同様に First draft と Final draft があるのですが、First draft は、授業内のペアワークで読み合いをし、お互いにチェックをします。提出はしないので、講師からのフィードバックはありません。ペアワークでチェックされた自分のエッセイは修正し、Final draft として提出します。また、この授業では、教科書のチャプターごとに単語テストがありました。単語の定義とその単語を使った文章を暗記してテストに備える必要があります。

提出物は全て、リンフィールド大学の「Blackboard」というサイト内で提出します。提出物は毎度担当講師によって採点されます。その成績は、Blackboard で見る事が可能です。また、スマホにも Blackboard のアプリがあり、私はいつもそこで成績を確認していました。また、この Blackboard アプリは通知機能があり、採点や提出物の期限の通知がくるので便利です。授業においては、日本の大学と同じようにアメリカでも「シラバス」がとても重要です。アメリカでもシラバスに則って授業を進めていきます。

4. ボランティア(Community Service)

Community Service の授業では、キャンパス周辺にある施設を訪れ、そこで毎週ボランティア活動をしました。ボランティアをする施設は、最初に自分の興味のある施設の希望を提出し、それによって割り振られました。原則毎週施設を訪れ、24 時間はボランティアをする必要がありました。私は小学校で体育教師のサポートをするボランティアをしました。アメリカと日本の小学校教育の違いを自分の目で確かめることができ、とても貴重な経験となりました。例えば、体育の授業において、アメリカでは子どもたちが私服、そして普通の運動靴で授業を受けていました。一方、日本では体操服と体育館シューズの着用が求められます。このような違いがあるため、アメリカの教育は日本より比較的自由だと感じました。また、アメリカには「タイムアウト」というシステムがあり、ルールを守らず先生から注意された生徒は、体育館の壁に1回タッチしに行き、戻ります。これを先生と生徒の間で「タイムアウト」と呼んでいます。このタイムアウトについて調べてみると、アメリカでは子どものしつけの方法として広く浸透していることがわかりました。一方、日本の体育の授業にはタイムアウトの制度

はないので、とても驚きました。タイムアウトは、子どもたちの心を落ち着かせるとともに、適切な行動を教えるためのものです。また、子どもたちに安全に運動してほしいという価値観から、タイムアウトは存在するのだと感じました。さらに、タイムアウトの制度を知って、ただ叱ることが必ずしも教育にとって良いことではないことを実感しました。日本では、教育の場で子どもがルールを守らないと、先生や親がすぐに叱ってしまうことが多いので、アメリカのようにタイムアウト制度を導入するべきだと考えます。

5. 勉強面でのサポート

・Conversation Partner

Listening & Speaking の授業の一環として毎週 Conversation Partner とのコミュニケーションがありました。私達は毎回会話のテーマを決め、そのテーマに沿って Conversation Partner に質問したり、私達が質問に答えたりしました。Conversation Partner はリンフィールドの学生で、彼らは日本語の授業を取っています。そのため、私達は日本語を彼らに教えたり、日本語で会話したりもしました。また、Conversation Partner と話したことについて Listening & Speaking の課題として Word で提出する必要があったので、自分のノートに聞いたことをメモしていました。これにより、自分のリスニング能力、そしてノートテイキングスキルを向上させることができました。さらには、スピーキング能力も向上でき、5W1H などを使った質問を頭の中で作るのも速くなりました。私の Conversation Partner はメキシコ出身であったため、メキシコの文化やスペイン語を学ぶことができ、とても良い機会となりました。

・WA Journal

Writing の授業の一環として毎週 Writing Assistant とのミーティングがありました。私達は課題のパラグラフやエッセイを提出する前に、Writing Assistant に見せに行き、添削してもらったり、アドバイスをもらったりしました。この WA Journal があったことによって、自分のエッセイの質が日々向上し、ライティングスキルも身につきました。また、Writing の授業で理解できなかった部分や教科書で分からなかった部分についても質問をすることがありましたが優しく教えてくれました。

6. アメリカ文化

・Homecoming

Homecoming は毎年秋学期に大学の卒業生を迎え、イベントや同窓会を行うアメリカの恒例行事です。リンフィールド大学では、今年は9月16日と17日の2日間にわたって行われ、多くのリンフィールド大学の卒業生が参加していました。私はこの Homecoming でアメフトの試合や水泳のタイム計測を見に行きました。特にアメフトの試合を見るのはこの Homecoming の時が初めてでとても印象に残っています。アメフトはアメリカの3大スポーツでもあり、歓声も凄く、スタジアムは熱気に包まれていました。観客は学生だけでなく、リンフィールドの卒業生や家族連れも多く、スタジアムは混雑していました。リンフィールド大学はアメフトで優勝経験が何度もあり、アメフト部は長い歴史を持っています。そのため、このイベントはその伝統を受け継ぎ、人気を維持するためのものなのだと思います。また、イベントを通じて、アメリカと日本の文化の違いを強く実感しました。日本との一番の違いは、アメリカ人は家族をととても大切にします。私が見に行ったアメフトでも水泳でも、競技が終わると真っ先に家族のもとに駆け寄り、ハグをする生徒が多かったです。日本の学生は、家族と接することを恥ずかしがる傾向があります。そのため、家族とハグすることをためらうことが多いです。さらに、アメリカ人は友達と会話することよりも家族を優先していたことが印象的でした。

・Thanksgiving

Thanksgiving は毎年11月の第4木曜日に行われ、家族全員が家に集まり、様々な食べ物を食べます。Thanksgiving Day がある1週間は休校で、食堂や図書館を含む大学の施設が閉まります。ほとんどの学生は

実家に帰り、家族と一緒に Thanksgiving を過ごします。私は Thanksgiving では、Friendship family の自宅に招かれ、前日には料理のお手伝いをして、Thanksgiving Day 当日は、彼らとの Thanksgiving を楽しみました。初めて食べる七面鳥はとても美味しく、印象に残っています。また、アップルパイやパンプキンパイ、マッシュポテトなど、Thanksgiving で定番の料理も食べることができ、とても貴重な体験でした。

7. Friendship Family Program

リンフィールド大学では、Friendship Family 制度があり、留学生にはそれぞれフレンドシップファミリーがいました。フレンドシップファミリーは留学生の受け入れをしてくれ、ホームステイだったり、さまざまな場所へ連れて行ってくれたりします。またフレンドシップファミリーの多くは日本のことが大好きです。私のフレンドシップファミリーの元では、様々な体験ができました。ハロウィンには、カボチャを彫ってジャックオランタンを作ったり、Thanksgiving には、アップルパイやパンプキンパイを作って食事のお手伝いをしたりして、全て私にとっては初めてとなるとても貴重な体験をさせていただきました。私のフレンドシップファミリーは日本を何回か訪れたことがあり、息子さんも昔、日本に交換留学で滞在していたので日本に関するお話もできました。

8. 終わりに

4か月という短い期間でしたが、リンフィールド大学での経験は私にとって、とても有意義なものとなりました。アメリカの文化や価値観の違いを自分の目で確かめることができ、日本と似ている点や異なる点を感じることができました。一番強く思ったのは、アメリカ人はとても家族愛が強いことです。また、アフガニスタン、ドイツ、フランスなどの異なる国籍の学生とも交流することができ、それぞれの国の文化や価値観について知ることができました。このように、様々な国籍の人とコミュニケーションをとる機会は滅多にないので、とても貴重な経験だったと思います。さらには、この留学を通して多くの仲間ができました。異なる国籍の仲間とつながることができ、コミュニケーションの重要性を改めて感じました。また、生活のなかでは、英語の正しい発音だったり、アメリカでよく使う話し言葉だったり、現地でなければ学べないことを多く学ぶことができました。授業においても発言や話し合いの機会が多く、自分の英語力を試すことができる良い環境にあり、日々自分の成長を感じることができました。留学が終わって満足し、完全燃焼だという人も多いですが、一番大事なのは、留学から帰ってきた後だと思います。留学がゴールなのではなく、この留学で学んだことや経験をどう生かすかが重要です。私は、今後 TOEFL や IELTS などの語学試験を受け、高得点を取りにいきたいと考えています。また、留学生のサポートなどの活動にも積極的に参加したいです。大学卒業後は、海外大学院の進学も視野に入れているので、リンフィールド大学で英語や異文化について深く学べたことはとても価値ある経験となりました。また、私は現在英語の教師を目指しています。今回の留学では、他の国からの留学生に比べ、日本人の英語力は低いということを強く実感したので、将来私は日本の英語教育を改善していきたいと考えています。近年グローバル化も進み、確かな英語コミュニケーション能力も求められるようになってきています。将来、子ども達のために英語の楽しさ、そしてその魅力を伝え、未来のある子どもたちの可能性を伸ばすことができるよう、今後も関東学院大学で勉学に励みたいのです。



【Homecoming でのアメフトの試合】



【キャンパス内のクリスマスツリー】

帰国報告書

学 部	経済学部	学 科	経済学科
留学先大学	ミネソタ州立大学	プログラム種別	交換留学
留学期間	2023年8月～2024年5月(約9か月)		

I am delighted to inform you that I have successfully completed the exchange program and safely returned to Japan. I am immensely grateful for the invaluable support I received from various individuals, including the international center staff, friends from the USA, friends and family in Japan, and everyone else involved. Their assistance was crucial in helping me overcome numerous challenges. I am confident that I enhanced my English proficiency, expanded my values, and grew as an individual. During the exchange program, I gained a multitude of enriching experiences. In this report, I will first explain why I decided to dedicate two semesters of my valuable college life to studying abroad. Afterward, I will share stories and anecdotes from throughout the exchange program. Specifically, I will discuss classes, daily life, changes in my English skills, unfinished tasks, advice for future students, and personal reflections.

To begin, let me reflect on two years ago when I was a student. There were two crucial reasons that inspired me to venture outside the country. Although I said crucial, they were not particularly profound. Firstly, I wanted to go abroad due to my curiosity and ambition, as I was eager to explore a place full of unfamiliar things. I desired to immerse myself in an environment that would make my life more exciting. I have been fascinated by foreign cultures since junior high school. Then, learning about the exchange program reignited my dormant passion. I started studying English with renewed enthusiasm. Another reason was that I wanted to further explore my values. In my opinion, expanding one's network and engaging with diverse people enhances future prospects. I expected that this experience would help me discover what I wanted to pursue in the future and aid in choosing my career path.

Next, I will discuss my classes. During the exchange program, I took courses outside my major, economics. Thus, I attended classes in various fields such as accounting, marketing, management, and investing. It was fascinating to explore other disciplines and meet individuals with unique aspirations. I earned a total of 24 credits during the exchange program. You can take more classes if you wish, but I think this number of classes is suitable for exchange students. I believe that everyone considering studying abroad is

concerned about classes and interpersonal relationships. To be honest, it was tough. Sometimes, you had to speak English in front of about 20 students in class, most of whom were native speakers, in case of presentations or speeches. Additionally, you may have taken group work-intensive classes. Furthermore, you would have been inundated with numerous assignments, such as essays and quizzes. In-class exams would have been challenging as well. Yet, you did not need to worry too much. You would have been able to receive powerful help from professors. They were very cooperative and closely monitored your progress. I felt that the professors there were more approachable than those in Japan. You could rely on them. For me, presentations and in-class exams were particularly challenging because I had to express my opinions in English without scripts, and I was not allowed to use a translator during exams. As for presentations, I think I should have spent more time practicing. I still struggle with speaking confidently in front of an audience. Regarding in-class exams, there were not only multiple-choice questions but also open-ended ones. Nevertheless, I believe I performed well on them.

Thirdly, let's delve into my daily life. My most significant adventure was undoubtedly the trip to Chicago with my unforgettable friends. I went there during spring break and spent four days sightseeing. I visited Millennium Park, Skydeck Chicago, Navy Pier, took a River Cruise, and more. Excitingly, my friends from other universities, who were also exchange students, traveled to various cities like New York, Los Angeles, and Texas during winter and spring breaks. This means that you will have several opportunities to tour the USA. I suppose that for anyone reading this essay, one of the definitive reasons for studying abroad, even if not explicitly stated, is to derive pleasure from the journey's experience. Fortunately, my friends proved that it is possible. You will have a whole month of winter break in December. Do not forget to create an excellent travel schedule. I mentioned a significant travel experience above, but ordinary daily life there is also one of my most precious memories. It was nothing extraordinary. I hung out with my friends, had lunch together, gathered in someone's room, and talked until midnight. It was fun. After returning to Japan, I missed those moments the most. I am firmly convinced that I was blessed with fantastic friends. Here, I will share a secret with you. During the exchange program, I gained approximately 7 kg in weight. I accidentally verified the Old Wives' Tale that living in the USA increases body weight. I apologize for that. Everyone, please be cautious and take care. I would also like to discuss the climate. Fortunately, I did not experience too much snow during the winter season. It was unusually warm from the perspective of local people. However, I found it extremely

cold compared to Japan, as the temperature dropped to negative 30 degrees Celsius. In fact, I had looked forward to experiencing a frigid region with significant snowfall as a new adventure.

Moreover, I will tell you about my English proficiency level. Before addressing that, let me share my previous English skills. To provide a comparison, I will reference my English level when participating in the orientation for international students held by MSUM. I vividly remember not understanding what other students, staff, and professors were discussing. I was surprised that most international students spoke English fluently. Consequently, I gradually lost confidence and felt anxious. My English skills were ineffective at that time. Additionally, during the first semester, I could not afford to socialize with friends due to spending excessive time on assignments. I genuinely struggled to use English initially. Now, I will move on to my English skills after the exchange program. I realized that, of course, individual proficiency levels vary, but it is extremely challenging to develop English skills to the level of a native speaker within nine months. I had expected to accomplish my goal of becoming fluent in English like native speakers. However, reality differed significantly from that expectation. I could not improve as much as I had anticipated. So, did my English not change at all? I would say "No" to such questions. As mentioned earlier, I spent a considerable amount of time with my friends and had a wonderful time with them every day. It is strange, but somehow, I managed to make progress. Even though I could not recognize my own improvement, I did make some progress. In short, what I would like to convey is that people sometimes set excessively high expectations and disappoint themselves. Nevertheless, we make gradual progress behind the scenes, just as I did. Specifically, my English level can be described as conversational. I understand their English for the most part, and I can express my opinions unless it involves presentations or similar formal situations. I can type in English and communicate with them through social media apps. Although I still need to expand my vocabulary, I believe I can comprehend a reasonable amount of written material. As a result, I think I can be a little proud of myself.

Fifthly, I will elucidate the things I regret. Firstly, I should have been more confident and tried to converse more, as it would have facilitated my English language growth. Sometimes, I associate with Japanese friends rather than Americans due to preferring more convenient interactions. Another regret is that I should have attended more events. After making close friends, I participated in fewer university-hosted events because spending time with friends was so enjoyable, and it provided a good opportunity to practice English. However, attending events would have allowed me to experience a variety of things and helped broaden my perspectives.

I realize now that actively engaging in new experiences is vital for personal growth when studying abroad.

For the sixth point, I have a small suggestion for students planning to study abroad. Before your long adventure begins, you should increase your vocabulary. You will be preoccupied during the first couple of months after arriving, and if you lack a sufficient vocabulary, you will struggle with various tasks. From my perspective, a strong vocabulary is fundamental to becoming an English speaker. I believe that a good vocabulary can help you get off to a great start. Let me offer another piece of advice to enhance your USA experience: focus on listening comprehension. Understanding spoken English will be the first and most challenging aspect of your exchange program experience. You cannot engage in conversations without listening skills. Can you understand English movies without subtitles? Going to the US is like jumping into the movie world. It implies that you will be listening to English in movies without subtitles, with various individual accents. But you do not need to prepare for that level, as I could have casual conversations with others, even though I did not fully understand English movies. Furthermore, I would like to address job-hunting matters as well. I worked on that during the exchange program, starting in November 2023. I had not prepared for it at all before that, so I began from scratch. If you follow the same path as me, you will regret your lack of preparation. I acknowledge that I am not adept at planning and multitasking, but I believe that managing classes, English study, friendships, and job hunting simultaneously would not be advisable. Therefore, I know that the period leading up to your departure will be hectic. However, you should start preparing as early as possible. Developing strong time management and multitasking abilities will be invaluable during your study abroad experience.

Finally, I would like to leave some advice for you. I hope my words can resonate with your thoughts and positively influence you. What I would like to emphasize the most is that maintaining a joyful attitude will help you confront significant challenges. There were more than 10 Japanese students present during my exchange program, and I noticed that some of them occasionally experienced homesickness. In my opinion, they shared certain personality traits. They were very diligent and responsible individuals. I do not recommend pushing yourself excessively to meet others' expectations. The next piece of advice is that if you still do not have a clear reason for studying abroad and have not taken action toward that goal, I strongly recommend you embark on the necessary preparations. Many people say that we should have definite purposes before undertaking something; however, in my view, you will be able to gain a worthwhile experience regardless. I

guarantee that it would be a much more satisfying endeavor than being lazy and simply lying in bed in Japan. It is an expensive undertaking, but I believe it is worth doing. You do not have time to endlessly debate making this decision. Just do it.

To conclude, I believe I performed fairly well overall. I attended classes diligently, made friends, improved my English skills, and enjoyed an invaluable experience. I am thankful for the support from so many people. I think the rewards are worth the considerable financial investment and dedicating your pleasant college life in Japan to this endeavor. It would change the way we think about people, the future, culture, and more. Again, I appreciate the help from the many different individuals involved. At the end of this report, writing a 2000-word English report was still a challenging task, even after the exchange program. However, the skills I gained have made it a manageable feat. My study abroad journey has imbued me with invaluable life lessons and personal growth that will undoubtedly shape my future endeavors in positive ways. The memories, friendships, and cross-cultural understanding I developed will forever be cherished as highlights of this transformative experience.



帰国報告書

学 部	国際文化学部	学 科	比較文化学科
留学先大学	アーカンソー大学	プログラム種別	語学派遣留学
留学期間	2022年8月～2022年12月(約4か月)		

I studied abroad at University of Arkansas, located in the southern part of the United States, from August 13th to December 18th, 2022. This is what I experienced in that time.

Since the reason I went abroad was to focus on studying English, I did not attend university lectures with Native American students; instead, for two terms, I attended an intensive English language school on campus for international students, Spring International Language Center (SILC). The school offered three classes, Reading and Vocabulary (RV), Grammar and Writing (GW), and Listening and Speaking (LS). The grammar section I learned and the essays I read in the RV and GW classes in the first term were geared to meet the required level for university entrance exams. In LS, I learned many basic things which are necessary in daily life. One of the areas of focus was on the pronunciation that needs to be strengthened in non-native speakers. Teaching style and the amount of homework varied, of course, depending on the teacher. Some classes offered a lot of opportunities to practice English with classmates by having the students participate in mini games, while others were more of a lecture style, with the emphasis on listening. Some instructors assigned quite a bit of homework, which took a lot of time to finish. When I first began at the school, I often couldn't understand what a teacher was saying, so I met with the instructors during their office hours. The instructors were very kind and spoke relatively slowly in the class, in order to be understood. In addition, they always asked students if they had some questions during the class. Every class had a lot of tests. Sometimes there were tests for all three subjects in one day. It was not easy to take that many tests, but that was the point; it was very effective in terms of frequently reviewing what I had learned and checking my understanding. When the first term finished on October 13th, I took the final exams. These tests were more difficult than usual. The reading test was especially hard, taking a long time to read because the sentence count was high. On the speaking test I couldn't get a satisfactory score; I had a problem with fluency. I was told my speaking was a little bit difficult to understand because I was pausing a lot due to the fact that I was trying so hard to get the grammar correct. Since this was my biggest problem throughout the term, I became determined to make more opportunities to speak English; I read various literary works so I'd be sure to increase my reading speed.

A new term started after five days' vacation. The level of classes changed, and new international students came. I was a little confused because the classes were clearly different from the previous level. For example, I was required to read long sentences in a short time in the reading class and to be able to know what they meant. But I couldn't always do that right away. Therefore, it was necessary to read important information quickly rather than read in detail. We were required to vary the vocabulary and various ways of expression when writing essays. Also, I had to listen and comprehend speech at regular speed. In the first term, I was able to get more than a 90% score, but I struggled to get a high score in the second term. A passing grade was a score higher than 70%; however, I didn't reach this score several times. It was especially difficult because we were expected to be able to summarize and rephrase; I know now that that is what helped me learn more in the second term than in the first, because it was harder. The final tests in the second term were the concluding tests of my studying abroad. I learned from my mistakes in the first term and tried not to make many pauses in the speaking test. As a result, I got my goal score. On the other hand, I couldn't achieve the satisfactory score in Reading and Grammar. I think the problem is the speed with which I read

essays and answered the questions. But I feel that the most important thing is to read a lot and communicate with a lot of people. In other words, consistent practice is essential until I can speak fluently and naturally.

Taking advantage of the office hours with the instructors was very important. This was a valuable time that I could use to practice things like pronunciation and ask what I did not understand in the class one-on-one with my instructor. Many Japanese are not good at differentiating and pronouncing R and L, and I was not an exception. I signed up for the office hour and practiced pronunciation. It was really profitable time in which they gave me detailed instructions on the position and movement of my tongue. Also, I asked them to go over my mistakes on the test when I could not get the satisfactory score. It became clear where I stumbled and how I should have solved the questions, so I learned a lot through office hours.

A system called Language Partner was set as opportunity to communicate with Native American students. SILC staff matched international students with students from the University of Arkansas, and we met about an hour during lunch breaks or after school. Talking to native students was completely different from talking with SILC teachers and classmates. When I met her for the first time, she spoke so fast that I had my hands full with catching what she said, and it was far from a smooth conversation. I could not catch the question and ask over and over again. However, it was a valuable time to tell her Japanese culture, customs, and my opinion. If I felt I could not express my opinion, I tried to change the way. I believe it was a great help in improving my speaking ability.

I also learned a lot of things from my host family. I was worried about finding a host family due to the COVID19, but I'm glad I was able to do it. My host family taught me not only English but also American customs and culture. They are the great family, and I was lucky to stay such a nice family home. They have accepted many international students before, and I was the 70th. They have 13 siblings though I couldn't meet everyone. My host family is Catholic. They go to church every Sunday, and they pray before meals and before going to bed. Such religious practices that I had never experienced in Japan were impressive. Most of my host family's friends were also Catholic. The most impressive thing after living together for four months is that they value their family and friends very much. I was surprised because they often eat together and spent time with other families. Sometimes, other families invited us to their house and entertained us with homemade cooking. I felt strong relationships with people who believing in the same religion. Even at home, while we ate dinner, everyone talked about various things and shared their own events. They really valued the time with their family such as playing board games, watching movies after dinner. I watched some movies, but listening was truly difficult. When I watched a movie at home, I had the English subtitles, so I was able to grasp the outline of the story even though I couldn't hear it. However, since there were no subtitles in the movie theater, I couldn't understand the story well, so I checked the story line after the movie.

During my Thanksgiving vacation, I experienced a traditional American holiday. I went to my host family's friend's house in Oklahoma. The house was located in a very beautiful place facing the lake. My host family invited their friends to have a meal on Thanksgiving. I baked a big turkey as I expected for Thanksgiving. We all expressed our gratitude each other, and then we enjoyed playing card games and hide-and-seek. I had many opportunities to play card games and board games with my host family and friends, and I learned many slang and unique expressions for the first time through the games.

Midterm elections were held in the US while I studied abroad. My host mother took me to the voting place, and it was very different from the voting system in Japan. In Japan, it's common to use paper when people vote, but in the US, they used something like a large personal computer. She showed me how to vote, which surprised me. She said if people respect each other's opinions, it's fine to talk about who they voted to, and I agree with her!!

I went to Little Rock, the capital of Arkansas, in December. Arkansas is the hometown of former president Bill Clinton, so I visited the Bill Clinton Museum. I was surprised that a baggage inspection was

carried out before entering the museum. Including this incident, when I went to the US, I was reminded about how safe Japan is. It was very interesting to see the gifts which the president received from the prime ministers, presidents, or the royal family of other country. I found presents from Japanese emperor and prime minister at that time. There were also many exhibits that made an appeal to women for rights like suffrage, and it left a big impression on me. Thanks to my host family, my studying abroad lives were really enjoyable. I can't thank them enough. I was really sad when I said goodbye to my host family. They saw me off despite the early morning. My host family is going to visit Japan for a trip in April. I would like to continue studying to improve my English skills by the time we meet again.

Finally, when I reflect on my studying abroad, there are what I should have done before leaving Japan. I regret most that I should have listened to English. It doesn't matter if it's music, movies, YouTube, or anything like that. I'm sure that making a lot of opportunities to listen to English will help improve our listening skills because when I became able to listen, my speaking ability improved. After the third month, I felt that I hear well more than before. Once I could catch a talk, it was possible to use the words that other people often used in conversation. I regretted I wanted to improve my speaking more, so I wish I had listened to English regularly and trained my ears. Students coming from other countries were able to speak English better than I thought. I was very frustrated because I only ask yes/no and simple questions at first. The conversation became more enjoyable as I could talk a lot, so I want those who plan to study abroad to create opportunities to listen to English.

Grammar is as important as listening. The grammatical items I learned at SILC were basically a review of what I had learned in Japan, so I didn't feel it was difficult. As I continued to review in the class, I became able to use the grammar I learned in conversation. I think that we will be able to speak naturally by outputting in conversation after repeatedly inputting.

All in all, my studying abroad was a multi-faceted learning experience of not only language but also various cultures; they were an integral part of it. Although it was a short period of four months, I am truly glad that I went to study abroad. I would like many people to experience studying abroad. Arkansas, which is rich in nature, somewhat resembles my hometown, and I loved it. I successfully completed my studying abroad program thanks to the cooperation of many people, including my family, host family, SILC students and teachers, and staff at the International Center. I really appreciate for the irreplaceable experience and memories.

帰国報告書

学 部	理工学部	学 科	理工学科
留学先大学	ハワイ大学 カピオラニ・ コミュニティ・カレッジ	プログラム種別	語学派遣留学
留学期間	2023年8月～2023年12月(約4か月)		

At first, studying abroad was so good because if I didn't go to study abroad, I couldn't have gotten this excellent experience. Also, Hawaii itself is a wonderful place, and the teachers and environment were wonderful. Thus, I want to talk about Hawaii because I can't explain the rest of it without explaining how wonderful the environment of Hawaii is. Hawaii is a good environment for things such as price, weather, degree, food and culture. And then, in recent years, they have become a symbol of Hawaii, and the symbol is famous as Hawaii. Therefore, more and more people who are from other countries and are a kind of visitor, businessmen and resident are coming to Hawaii every year.

Firstly, there are many things I have felt living in Hawaii such as price, personality, environment, culture and events. For example, in price, currently, due to the weak yen, prices in Hawaii are very high compared to Japan. For example, when I went to some restaurant or shop, and I ordered some dish such as Hawaiian food, local food and ingredient, I had to pay attention about price to save money, because Hawaii's price is higher than Japan's price. However, the price, which seemed very high at the beginning of my stay, seemed normal after three months because I had become used to the price a little. For example, a hamburger set from McDonald's costs about \$11, and the price is more than ¥1,500. Next, it cost about \$20 for a set of ramen which this taste is a kind of tonkotsu-style ramen, fried rice, and gyoza at one restaurant, but if I eat them, maybe I have to pay about \$11 to eat them. Just in case I tell you, their size and taste between Hawaiian Ramen and Japanese Ramen is same because a lot of Hawaiian Ramen's restaurant is from Japan company and many restaurants were supervised by Japanese or Japanese companies and were particular about taste. Moreover, when I went to Marugame-Seimen at Waikiki, the cheapest udon was \$5.5, which seemed reasonable in Hawaii, but when I came back to Japan and went to Marugame-Seimen, the price was about ¥500, so I realized that prices were high as well. Therefore, one of the things that made me realize which I was staying overseas is the difference in cost of living between Hawaii and Japan, and if I go to overseas in the future, I will have to keep that in mind.

Secondly, When I stayed in Hawaii for 4 months, the season was summer and the rain fell only in November and December, and when it did fall, it was usually in the middle of the night. However, one time, I felt that it rained very hard during the day. Furthermore, it was the first heavy which I felt in Hawaii. Hawaii is very warm all year round as you know, so I had never felt a kind of winter in Japan. However, I felt very cold in public transportation such as bus, train and Uber and public facilities such as classroom, libraries, cafeteria, shop and museums because their place of air condition worked very hard. Therefore, I usually wear hoodies to warm myself, and if I did not wear it, I would catch a cold, and I would have to go to the clinic and pay for expensive treatments and

medications. However, basically, Hawaii is so warm that many people go into the ocean even in December. Also, a lot of people who is tourists and businessmen often wear short sleeves or Aloha T-shirts, so it is difficult to say which is right in general, as people have different senses of hot and cold. For example, my host-father said December is a good surfing season because the ocean waves are high, it is very pleasant to ride the waves. When I heard the story face to face, I was surprised a little because in Japan, it is not recommended to go into the ocean in December, because the water temperature is very low.

Thirdly, when I first came to Hawaii in this time, I did not know there was a difference in food about Hawaiian food and local food, but now, after learning about them from KCC's classes, I can understand the difference between Hawaiian food and local food. Therefore, I have to explain the difference between Hawaiian food and local food. The most significant feature is the history of their creation. For Hawaiian food, they are made by Hawaiian who is native Hawaiian. However, for local food, they are made by Hawaiian and other people who is immigrant from Japan, Korea, China, Portugal and Okinawan to work sugar plantation. For example, one of the most famous foods in Hawaii is called Poke which seems to be the same as Kaisen-don. The process of making poke is like that of Kaisen-don, but the most important difference is that in Kaisen-don, the sashimi is placed on top of the rice, whereas in poke, the sashimi cut into slices and shaped like blocks, which are then placed on top of the rice. And then, Poke is completed by adding various toppings to them. However, even the locals are divided as to whether this dish is called Hawaiian food or local food. The reason for this is that this dish is very common and well-known among the local people. Next, I introduce about my favorite Hawaiian food. This name is Kalua pig (Kalua Pork). In the first place, that word Kalua is Hawaiian language, and the word "kalua" means "to cook in an underground oven or imu." Traditional Hawaiian Kalua Pork or Pig is seasoned with Hawaiian sea salt and wrapped in Ti leaves, banana leaves or coconut palm fronds. It is then buried underground to cook with a special kindling that gives the meat a smoky flavor and sometimes cooked with hot lava rocks. It's delicious and tender, yet time consuming and kind of complicated to cook it this way. Moreover, there are three cooking steps. Firstly, pierce pork all over with a carving fork; rub in salt then liquid smoke. Transfer pork into a slow cooker. Secondly, cover, and cook on Low for 16 to 20 hours, turning once during cooking time. Finally, remove pork from the slow cooker; shred with two forks, adding drippings as needed to moisten. Then if I am going to make the Kalua pig or pork, I have to spend about 24 hours. Therefore, a lot of Hawaiian people only make it at party, so if I want to eat it, I have to go to restraint to eat it or shop to buy delicious it. However, it is very difficult to find a flavor you like because the amount of salt varies so much from restaurant to restaurant.

Fourthly, historically, Hawaii has been a mix of various culture because the original Hawaiians came from Polynesia about 1,500 years ago and became the Hawaiians we know today, but they have so sad history. For example. About Hawaiian language, at first Hawaii was ruled by Hawaiian kings and queens. However, after the Hawaiian queen was overthrown by US government and UK business guys, a lot of students must not speak to Hawaiian language because new government ban to speak Hawaiian language at school. When they speak to Hawaiian language at school, a lot of teachers

punished them such as hitting and attacking. Therefore, they stopped speaking Hawaiian language at school for fear of being attacked. However, a lot of residents of Hawaii protest the idea which cannot speak to Hawaiian language at school. After fighting back, the government allowed the Hawaiian language to be spoken in schools. Therefore, today, when a lot of students speak to Hawaiian language at school, a lot of teachers don't pay attention, because it is normal. On the other hand, People who is from various countries such as Japan, Korea, China, Portugal and Okinawan migrated to the area because they wanted to work at sugar plantation to get a lot of money. Also, when they first arrived in Hawaii, they lived in their own languages because they did not know how to use Hawaiian language. Therefore, A kind of dialect called Pidgin was created as a mixture of many languages. If you want to listen pidgin, you have to make a friend who is from Hawaiian and can speak to pidgin. Even if you can make them, you might be able to listen to pidgin. Personally, the pidgin is a very interesting language, and once you hear it, it sounds similar to English, but it is totally different. In addition, when you hear it in Hawaii, locals praise and pidgin can understand what it means because they only have the opportunity to speak it among themselves. Therefore, understanding both the Hawaiian language and Pidgin in Hawaii will help me enjoy Hawaii more.

Next, I would like to share with you some of the things I did in Hawaii during my holiday. Basically, I lived in Hawaii Kai where is near Coco-Head, and this place is a kind of countryside. For example, if I want to go to convenience store such as 711, It takes about 1 hour on foot and 20 minutes by car. In addition, if I go to downtown such as Waikiki and Chinese town, it takes about an hour and half by car. Therefore, I usually went to Waikiki or my friend's house at Hawaii-Kai because it is nothing to do at home, and it's a waste not to go out and have fun even though you're in Hawaii. Thus, I spent many of my holidays at famous tourist spots and restaurants. And we did something that could only be experienced at that location. For example, when I went to Pearl Harbor, I was able to gain a variety of experiences and knowledge there, and see famous places, planes and battleships there such as USA Arizona Memorial, ZeroSen, Sword of the Samurai and USA Missouri BB63. Furthermore, the closest tourist attraction to my house was Coco-Head, so I went there often. However, that place is very difficult to go to in Hawaii, and we do not recommend going to it unless the person is a good athlete. Next, since we needed to go to the big island, I went to other islands. The place was more rural than the countryside of Japan, and there was almost only one road, so the scenery didn't change at all. Moreover, in that place, the language of the Hawaiian people was Hawaiian even more than Honolulu, so many people spoke Hawaiian or Pidgin. However, there were a lot of people like that, so I was able to eat real Hawaiian food such as Poi, Kalua Pig, Lualau, Lomi Lomi, Manapua and Chicken Long Rice. In addition, I was able to eat a lot of delicious Hawaiian food there. Therefore, I was able to enjoy Hawaiian cuisine made by Hawaiian people. Moreover, when I went there, I could experience making Poi, and this was so hard, because I was very confused because the method of making it differs depending on the person. Therefore, I could enjoy Hawaiian culture and life style.

Therefore, what I realized through studying abroad is that learning English and international culture in Hawaii is wonderful, and the people of Hawaii are very kind, so if I have any trouble, they will help me right away. If some students are thinking about whether or not to go to Hawaii to study

abroad, I will recommend there to them. In addition, even if you have some free time in Hawaii, it's an island country, so you can take day trips to many places. And then, you can concentrate on your studies and take a break once in a while. Therefore, I had a great time learning about the place and people of Hawaii, and the experience I had over the past four months has been very valuable.



帰国報告書

学 部	社会学部	学 科	現代社会学科
留学先大学	ハワイ大学 カピオラニ・ コミュニティ・カレッジ	プログラム種別	語学派遣留学
留学期間	2022年8月～2022年12月(約4か月)		

1. はじめに

私は8月から12月までハワイ大学 KCC に留学しました。8月8日に成田発ホノルル着の便で行きました。ワクチン接種が二回まで住んでいれば陰性証明や隔離措置などはいらず、私は三回接種していたので、自治体で発行してもらった接種証明書(海外用)をあらかじめ発行してもらいスムーズに手続きができました。ホノルルに到着してからは、ホームステイ会社の方の車にピックアップしてもらい家まで連れて行ってもらいました。帰国の時には日本入国の条件がワクチン接種三回以上か72時間以内の陰性証明書が必要でした。事前にファストラックで検疫と税関を申請していたのでスムーズに通過できました。今のハワイではコロナによる制限は特になく、マスクをしなくても基本的にはどこでも行けます。

2. 大学について

私は IEP というプログラムだったのであらかじめ時間割が組まれており、月曜から木曜まで同じ ESOL50,ESOL52 を受け、金曜日は IS54 という授業でした。クラスメイト全員が英語を第二外国語としている人達だったので、授業自体もとても難しいものではありませんでした。このプログラムの目的は、大学の授業についていけるように英語のスキルを高めていくというものでしたが、内容としてはただ、文法を学んだり、エッセイを書くというものではなく、ハワイの自然や歴史などの題材を使いながらエッセイを書いてみたり、プレゼンテーションをするというものだったので、ハワイならではの授業だなと感じました。

私は今まであまり英語で長い文章を書いたことがなかったのではじめは苦戦しましたが、回数を重ねていくことにどんどん長い文章が書けるようになっていきました。宿題はあまり出ず、たまに単語テストなどがあるときに勉強してきて臨んでと言われたり、エッセイが書きおわらなかつたり、エッセイの書き直しがあるときくらいで基本的には少なく感じたため、普段は日本から持っていった参考書を解くなどしていました。授業でわからない点がある時にも役に立つので一冊は文法書を持っていくのがおすすめです。また、先生たちがおすすめの学習サイトなども教えてくれるのでそれも利用していました。

学校の授業で提出するエッセイなどは手書きが多かったです。しかし、授業内でアプリやサイトを使って単語勉強や動画を視聴することもあったので、毎回 iPad などを持って行っていました。

ミニテストなども何度かあり、点数が低いとやり直しなどがありましたがそこまで難しい問題ではないので、普段からちゃんと復習をしていれば問題ない内容だと思います。立地的にはハワイ大学 KCC はダイヤモンドヘッドの麓にあり、自然豊かな環境ですが学内にあまりお昼ご飯を買う場所がないのでそこだけが不便でした。ただ、ワイキキからもバスで10分程度の場所であったことはよかったです。

大学では毎週土曜日にファーマーズマーケットがひらかれており、新鮮なフルーツやローカルフードなども食べることができるのでお勧めです。他にも金曜日の放課後にイベントが開かれたり、土日にもボランティアを募集していたりするので、そういった活動に参加することで、友達をつくれたり英語を使う機会を見つけることができます。私はこういったボランティアなどは学校の掲示板を定期的にチェックして見つけていました。ほかにも学校からメールでイベント案内が送られてきたりもしました。また、KCC だけで探すのではなくUH(ハワイ大学)まで行って探してみるとたくさんのイベントが見つかります。

3. ホームステイについて

私のホームステイ先は大学からバスで15分程度のところで、日本人の夫婦の家庭でした。二人とも働いている家庭だったので平日は忙しそうでしたが、土日などは車で島のいろいろなところに連れて行ってくださったり、ハワイならではの様々な食べ物なども出してくれました。家の中では英語で会話するということはありませんでしたが、お店で使える英語だったり、島の案内などもたくさんしてくれたり、日本人の視点から気を付けたことがいいことなどをおしえてくれたり、困ったときにすぐに日本語で相談できたことがとてもよかったです。特に私は初めての海外であり、慣れないことばかりだったので、このように教えてくれて本当に助かりました。家では朝ごはんと夜ご飯は出してもらい、お昼ご飯は自分で用意しなければいけませんでした。ハウスルールで自分で使えるキッチン用品が電子レンジだけでしたが、自分の部屋に個人用の冷蔵庫があったので、コストコでパンをまとめ買いしたり、学校の前の日にスーパーで総菜を買ったりしたものをお昼に食べていました。とても良いホストファミリーに出会えて本当に良かったです。他にシェアハウスなどをしている友達の話を聞くと、自炊をしなければいけなかったりなど大変という話をきいたのでホームステイで良かったと思いました。

4. 携帯、キャッシュ、バスについて

携帯電話は日本で契約できるイエローモバイルのサクツとシムのアメリカシムを事前に購入し、開通を到着日に合わせて依頼していたので空港に着いた瞬間から使えてとても便利でした。また、今回は円安だったので、使用料を日本円で払えたのもよかったです。友人の中には現地についてからシムを購入する人や日本のプランからアメリカ放題などでそのまま使っている人も多くいました。

ハワイはほとんどのお店でクレジットカードが使えます。たまに小さいお店などでは5ドル以下の支払いではキャッシュのみという場合もありますが基本は使えるので、私はあまり現金を使わずにほとんどをカードで支払いました。持っていくカードでおすすめるのは楽天カードです。ワイキキとアラモアナに一か所ずつカードを持っている人のラウンジがあり、日本語で案内してもらえたり、飲み物をもらえたり、日本人しかいない場所で休憩できるので一枚楽天カードを持っていくのはおすすめです。

バスに乗る時には現金もしくはホロカードという日本の「Suica」のようなもので払うかの二択です。セメスターが始まる前に学校に行く日があり、その日に授業料の支払いが済めば、ホロカード付きの学生証を受け取ることができます。このホロカードはセメスターの期間内は使い放題となっていて、学費に費用も含まれています。

そのため、ハワイに到着してから学生証を受け取るまでの間はホロカードがもらえないのですがスーパーなどでホロカードを買うことができるのでカードだけ購入し使うたびにチャージをするようにすれば、無駄にせずにごすことができます。私は日本で生活しているときにあまりバスに乗ったことはなかったのですが、ハワイではバスが学生の主な交通手段となっています。最初は乗り方などもわからなかったのですが、ネットで検索したりホストファミリーに教えてもらったりして乗れるようになりました。日本と違って、運転手さんが物凄くラフで途中で急に休憩しに行ったり、バス停じゃないところで降りしてくれたり文化の違いが見えてとても面白かったです。

5. ハワイでの生活

ハワイでの生活で一番大変だと感じたのは物価高です。円安ということもあり、日本とは比べ物にならないほど物価が高く、いつもファストフード店などでお昼を買っていました。ハワイは自然が豊かな場所なので、ワイキキなどでのショッピングももちろん楽しかったですが、海に行ったり、トレッキングをするのも楽しかったです。みんなそれぞれ好きな音楽を流しながらすれ違う人を励ましあいながら登っていて雰囲気がとても良かったです。日本語で検索をすると観光客向けの情報がたくさん出てきますが、英語で検索をするとローカルなイベントがたくさん出てきて無料で参加できるものもたくさんあったので、どこか出かけるときは英語で調べるのがおすすめです。楽しい思い出もたくさんある一方で、ハワイは観光地ですが、やはりアメリカの一部なので、危険な場所もたくさんあることを初めて知り、実際に近くで立てこもり事件が起こったこともあり、常にある程度の緊張感をもって過ごさなければいけないとも感じました。

6. 最後に

私の今回の留学の一番の目的は英語の上達でした。もちろん4か月ほど住んでみて、前に比べたら、聞き取れるようになったり上達した面もありましたが、まだまだ伝わらなくてもどかしい思いをしたり、もっと英語が上手くなりたい、と思うこともあるので、日本に帰ってからもしっかり勉強を続け、日本にいながらも英語を使う機会を自分から見つけ出してどんどん上達させていきたいです。

そして語学以外にも様々な学びがありました。ハワイの文化を知ることができたり、韓国人の友人を通して韓国の文化なども学ぶことができました。そして何より私の中で大きな発見だったのは、自分は日本のことをあまり知らないということです。日本で生まれ、日本で育った私ですが、日本のことを聞かれたときにうまく説明できなかったり、わからなかったりすることがとても恥ずかしかったです。韓国人の友人に何度も日本の良さを教えられました。もっと日本のことも自分から興味を持っていかなければいけないと改めて感じました。

さらに、今回の留学では様々な出会いがありました。クラスメイトは日本人と韓国人のみでしたが、イベントなどでまた別の国の人と仲良くなれたり、日本人でもいろいろな地域出身の人と仲良くなれて自分の世界がとても広くなりました。このつながりはこれからも大事にしていきたいです。そして私はこの留学を通して日本の良さを外国の方に伝えていくことをしていきたいと考えようになりました。自分の新しい夢も見つけることができ、今回の留学にはとても感謝しています。今回の留学で学んでこと、感じたことを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。

もし、留学に行くかどうか迷っている人がいたら、絶対に行くことをお勧めします。

